

パーソナル コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



PCV-T700MR

警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることもあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～10ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く
- ③ ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる可能性があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

行為を指示する記号



強制



プラグをコンセントから抜く



アース線を接続せよ

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-netは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのパソコンに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。

本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の傷害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。

本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

⚠警告・⚠注意	6
こんなことができます	11
マニュアルの使いかた	13
コンピューターの基礎知識	14

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる	20
電源を切るには	21
マウスを使う	23
キーボードを使う	26
文字を入力する	29
日本語入力を準備する	29
入力のしかたを選ぶ	31
文字を入力する	32
CD-ROM / CD-Rを使う	37
トレイアダプターを使う	38
キャディを使う	42
使用できるディスク	46
CD-R FSを使う	47
フロッピーディスクを使う	54
フロッピーディスクを入れる	54
データを書き込み禁止にする	56
初期化について	56
使用できるフロッピーディスク	57

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ	58
インターネットとは?	58
インターネットを始めるには	59
インターネットを始める	61
パソコン通信を楽しむ	62
電話 / ファックスを使う	64
電話 / ファックスを準備する	64
電話をかける	66
電話を受ける	68
ファックスを送信する	69
ファックスを受信する	70
赤外線 (IrDA) でデータを交換する	71
ビデオ編集をする	73
音楽CD / ビデオCDを再生する	74
テレビを見る	75
いろいろなソフトウェアを使う	76

周辺機器を接続する

電話回線につなぐ	77
電話回線のコンセントの種類	79
赤外線通信アダプターをつなぐ	80
AV機器をつなぐ	82
アンテナをつなぐ	83
ビデオデッキをつなぐ	85
ビデオカメラレコーダーを	
つなぐ	87
デジタルスチルカメラを使う	89
テレビにつなぐ	90
液晶プロジェクターにつなぐ	91
プリンターをつなぐ	92
ジョイスティック / MIDI機器を	
つなぐ	93

リファレンス編

本体を拡張する

拡張ボードを増設する	96
メモリーを増設する	105

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの概要	106
Mainメニュー(基本的なシステム構成の設定).....	111
Advancedメニュー(システム構成の詳細の設定).....	119
Securityメニュー (パスワードの設定).....	128
Exitメニュー(BIOSセットアップメニューの終了).....	132

Windowsの設定を変更する

操作環境を自分の好みに合わせる ..	134
--------------------	-----

その他

使用上のご注意	146
お手入れ	148
保証書とアフターサービス	150
主な仕様	151
各部の名称と働き	153
故障かな?と思ったら	157
リカバリーCDで本機を再セットアップする	162
キーボードショートカット	164
索引	165

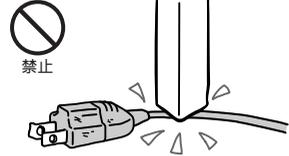


下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などに
より**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

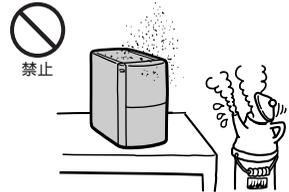
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



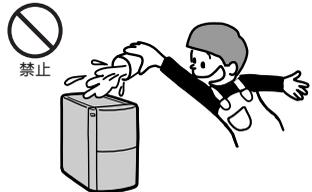
油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。

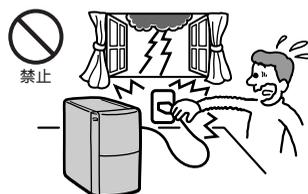


むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード(基板)を取り付ける場合など、コンピューターの内部を開ける必要があるときは、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触らない
感電の原因になります。



本機は日本国内専用です
交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因と
なることがあります。



下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、
目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを
感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してくだ
さい。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは
医師の診察を受けてください。



キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、
腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や
痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息し
てください。万一、休息しても不快感や痛みがとれない
ときは医師の診察を受けてください。





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

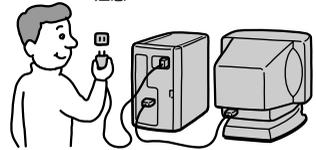
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



注意

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。安全アースを取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

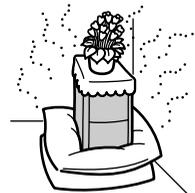


アース線を
接続せよ

通風孔をふさがない

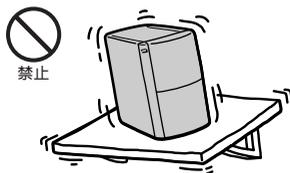
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんや布団など)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。



不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピューターを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。



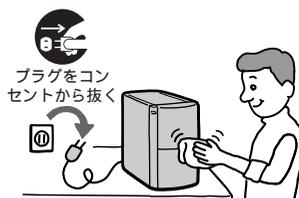
製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させる時は電源コードや接続コードを抜く
接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。





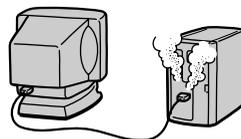
下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

コネクターはきちんと接続する

- コネクター（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクターには必ずアースを接続してください。



注意

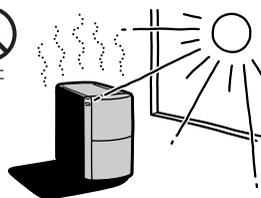


直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



禁止



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

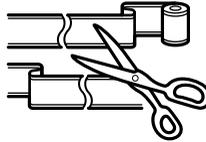
こんなことができます

本機は、テレビやビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのAV機器と組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのパソコンです。

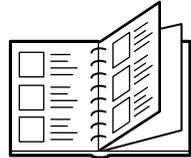
ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



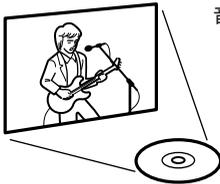
音楽CDを聞く



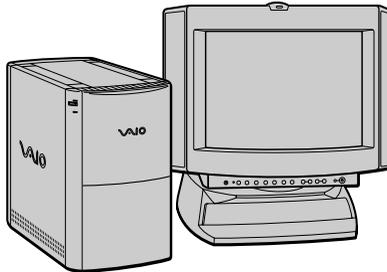
ビデオ編集をする



電子アルバムを作る



ビデオCDを見る



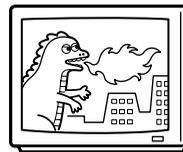
インターネットを楽しむ



電話する



ファックスする



テレビを見る

次のページにつづく

取り込んだ画像や映像を自由自在に活用する

別売りのソニーデジタルスチルカメラDSC-F1/F2「サイバーショット」から画像を取り込み、付属のPictureGear Liteソフトウェアで簡単に管理できます。付属のAdobe PhotoDeluxeソフトウェアを使えば、取り込んだ画像にタイトルを入れたり、特殊効果をかけたりできます。

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーから取り込んだ映像は、付属のSlipclipソフトウェアを使って、一本の映像にまとめてビデオCDにすることもできます。本機は前面パネルにAV入力端子を標準装備しており、AV機器と簡単につながります。

AV再生を楽しむ

付属のMedia Barソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます。

ファックス電話として活用する

ファックスを送受信したり、本機を電話として使うこともできます。

実用的なソフトウェアを使う

ワープロや表計算、家計簿などの市販のソフトウェアを使って、本機を実用的な用途に使えます。

テレビを見る

本機にアンテナをつなぐと、パソコンを使いながらテレビ番組を楽しむことができます。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の3章で構成されています。

□ 操作編

ここでは、本機の基本的な使いかた、一歩進んだ使いかた、周辺機器の接続のしかたを説明しています。本機の操作に慣れていないかたはここからお読みください。

□ リファレンス編

ここでは、本機の拡張のしかたや設定の変えかたを説明しています。パソコンについて習熟されており、本機をさらに拡張してお使いになりたいかたはこちらもお読みください。

□ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

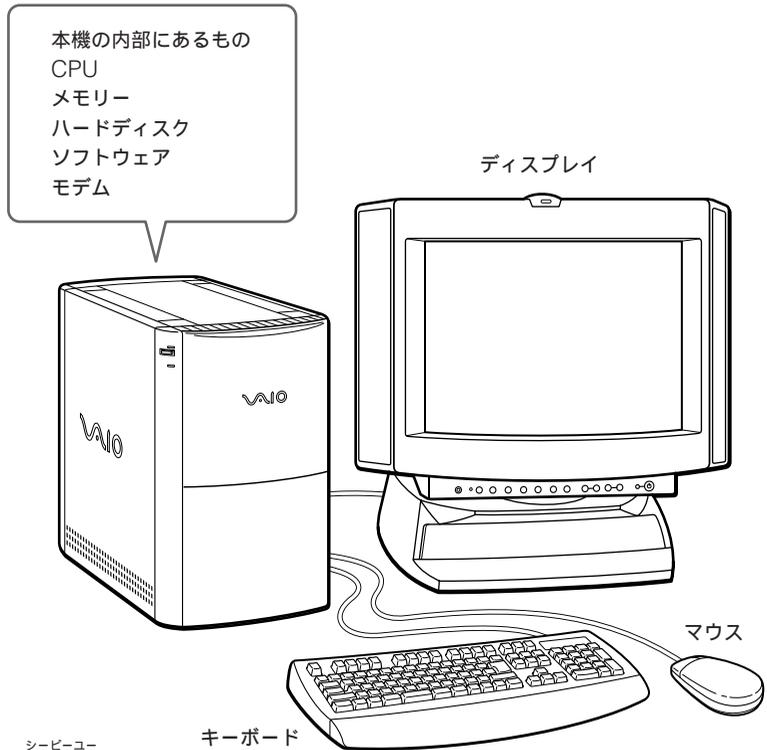
こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを利用したい	「インターネットを楽しむ」(58ページ)
映像の編集をしてみたい	「ビデオ編集をする」(73ページ)
CDを聞きたい	「音楽CD / ビデオCDを再生する」 (74ページ)
電話をかけたい	「電話 / ファックスを使う」(64ページ)
テレビを見たい	「テレビを見る」(75ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」 (89ページ)
ビデオカメラレコーダーをつなぎたい	「ビデオカメラレコーダーをつなぐ」 (87ページ)
他のパソコンのデータを このパソコンで使いたい	「赤外線 (IrDA) でデータを交換する」 (71ページ)

コンピューターの基礎知識

ここでは、基本的なコンピューターの用語を説明します。

また、コンピューターウイルスやソフトウェアの不正コピー禁止についても説明します。

用語解説



シーピーユー
□ CPU

Central Processing Unitの略で、中央演算処理装置のことです。パソコンの内部にあり、パソコンの頭脳にあたります。

□ メモリー

パソコンの内部にある記憶装置のことです。CPUで作業した結果などを一時的に蓄えておきます。本機では、32Mバイトという大きさのメモリーを搭載しています。電源を切ると記憶した内容は消去されます。

□ ハードディスク

メモリーが一時的に作業結果を蓄えておく記憶装置であるのに対して、ハードディスクは長期間、作業結果を保存しておく記憶装置です。パソコンで作った文書や絵の他、ワープロや表計算などのソフトウェアもハードディスクに保存されています。電源を切っても記憶した内容は保持されます。

□ ソフトウェア

ワープロ、表計算、データベース、ゲームなど、パソコンを使う上での具体的な機能を果たすものです。

□ キーボード

文字や数字を入力するための機器です。

□ マウス

本機でのほとんどの作業に使用します。パソコンでは文字や数字を入力するだけでなく、画面上のある場所を示すという操作が必要です。マウスがその「示す」という操作に使われます。マウスを机の上で滑らせると、その動きに合わせて画面上の矢印(ポインター)も動きます。

□ ディスプレイ

使用しているソフトウェアや作成している文書などを表示します。

□ モデム

パソコンに電話回線をつなぐために使用します。パソコンのデータを、電話回線でやりとりできるように信号を変換します。

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないもの書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がる場合がありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

操作編

この章では、本機の基本操作やうまく使いこなすための情報やヒントを説明しています。本機の操作にあまり慣れていない方は、ここからお読みください。

第

1

章

基本的な使いかた

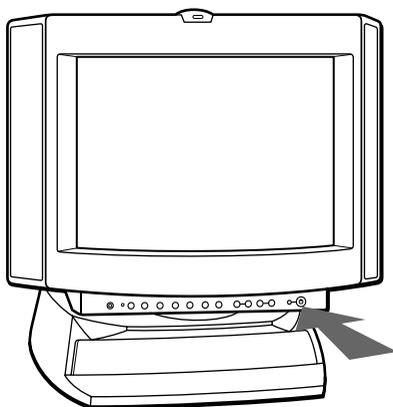
電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。(55ページ)

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。

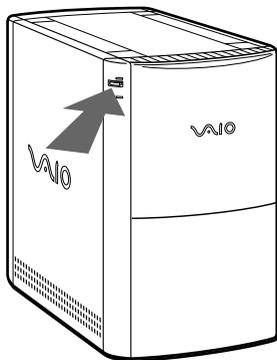
- 1 ディスプレイの電源スイッチを押す。



2 本機の電源スイッチを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが点灯し、Windows 95が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 95のセットアップ画面が表示されます。Windows 95のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

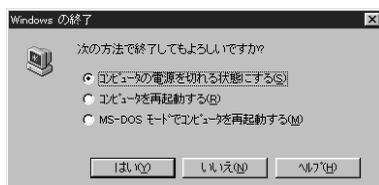
ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

- 1 タスクバーの[スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。



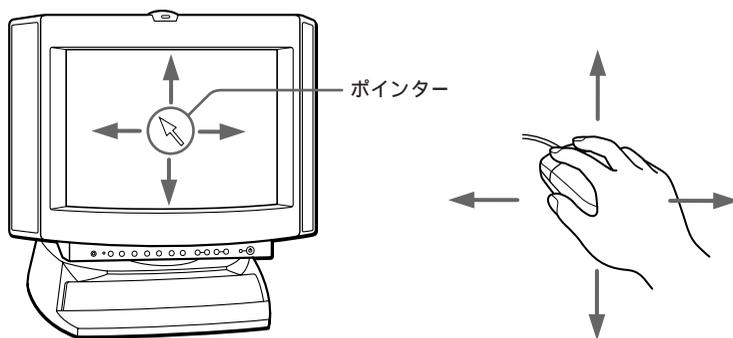
- 2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
「Windowsの終了」が表示されます。



- 3 [コンピューターの電源を切れる状態にする]をクリックして選
び、つぎに[はい]をクリックする。
「しばらくお待ちください」と数秒表示されてから、本機の電源が自動
的に切れます。

マウスを使う

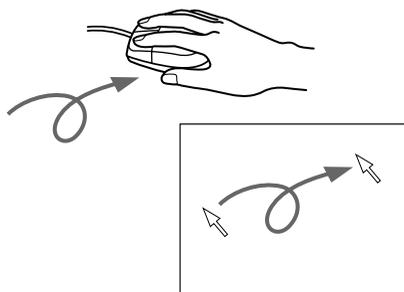
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。

マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かして机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



次のページにつづく

ポイントする

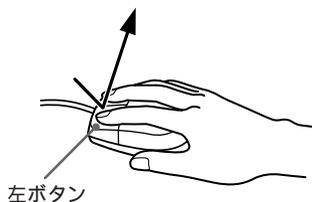
ポインターを希望の位置に合わせることで、メニューを選ぶときなどに使います。



クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

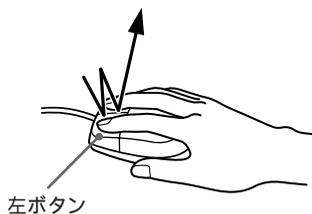
[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

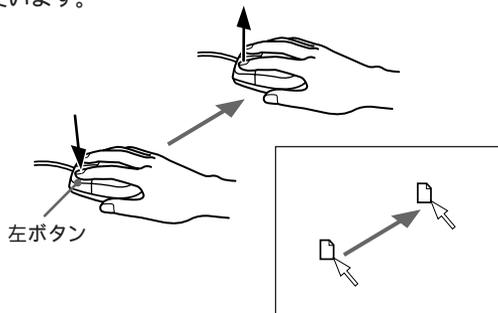
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



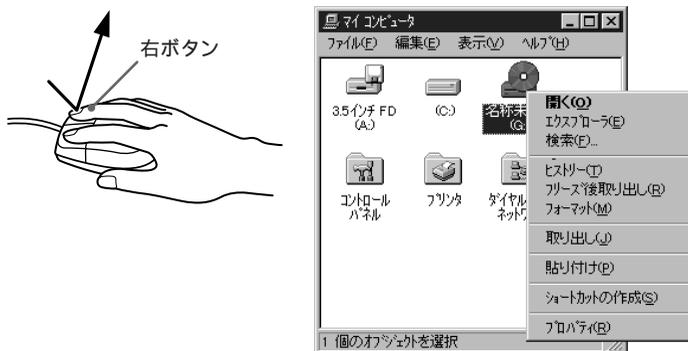
ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。



右クリックする

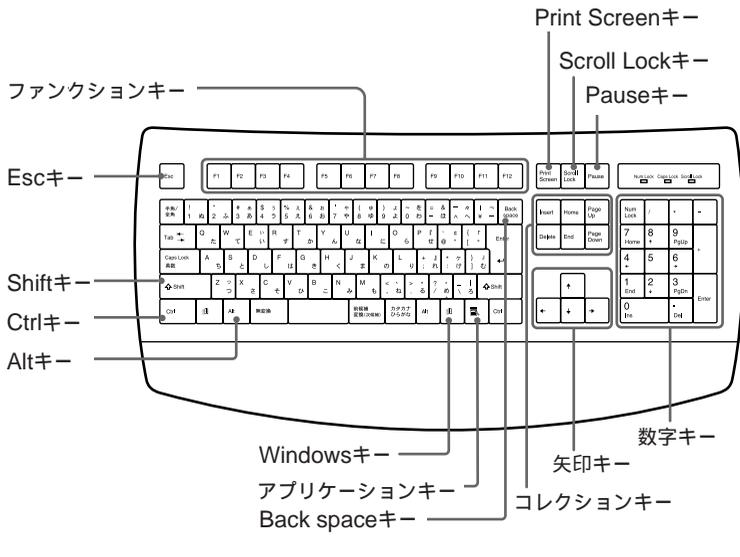
右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(29ページ)をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Ctrl(コントロール)キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはWindows 95または各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例)Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt(オルト)キー	<p>文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。</p> <p>使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくはWindows 95または各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>例) Altキーを押しながら半角/全角キーを押す。 押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。</p>
Shift(シフト)キー	<p>文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。Caps Lockランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p>
Windows(ウィンドウズ) キー 	<p>Windows 95の「スタート」メニューが表示されます。</p> <p>他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくはWindows 95の取扱説明書をご覧ください。</p> <p>「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」(164ページ)をご覧ください。</p>
数字キー	<p>Num Lock(ナム・ロック)キーを押し、Num Lockランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。</p>
矢印キー	<p>画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Num Lockランプが消灯しているときは、数字キーの一部も矢印キーとして使えます。</p>
アプリケーションキー 	<p>マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。</p>
Esc(エスケープ)キー	<p>設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。</p>

なまえ	機能
Print Screen(プリントスクリーン)キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイントブラシ」などのソフトウェア上に貼りつけられます。
Back spaceキー	画面上のカーソルの左の文字を消すときに押します。
コレクションキー	Num Lockランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えません。
<ul style="list-style-type: none"> • Insert(インサート)キー 	文字入力モードを切り換えます。1回押すごとに画面上のカーソルの位置に文字を挿入するモードと、カーソルの位置から文字を上書きするモードとが切り換わります。
<ul style="list-style-type: none"> • Delete(デリート)キー 	画面上のカーソル上の文字を消すときに押します。
<ul style="list-style-type: none"> • Home(ホーム)キー 	行の先頭にカーソルを持っていくときに押します。
<ul style="list-style-type: none"> • End(エンド)キー 	行の最後にカーソルを持っていくときに押します。
<ul style="list-style-type: none"> • Page Up(ページアップ)キー 	数ページに渡る画面の、あるページを表示しているとき、前のページに戻りたいときに押します。
<ul style="list-style-type: none"> • Page Down(ページダウン)キー 	数ページに渡る画面の、あるページを表示しているとき、次のページに行きたいときに押します。
Scroll Lock(スクロール・ロック)キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Pause(ポーズ)キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーの名前と働きについては、「キーボードを使う」(26ページ)をご覧ください。

日本語入力を準備する

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

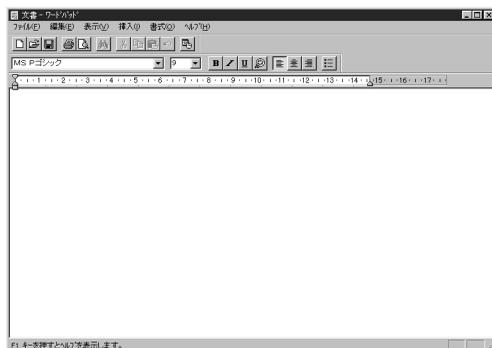
まず、ワードパッドを起動します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
スタートメニューが表示されます。



- 2 [プログラム]をクリックして、ポインターを[アクセサリ]に合わせてから、[ワードパッド]をクリックする。

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

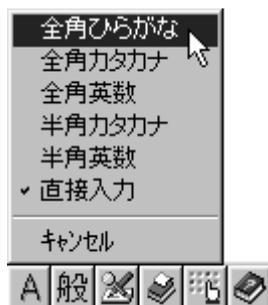
キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME97のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。



MS-IME97ツールバー

- 1 MS-IME97ツールバーのいちばん左側の[A]をクリックする。
文字入力選択メニューが表示されます。



- 2 [全角ひらがな]をクリックする。
画面上に表示されているツールバーのいちばん左側の表示が[A]から[あ]に変わり、日本語を入力できるようになります。



[A]から[あ]に変わる。

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、ツールバーにあるをクリックして、表示されるオンラインヘルプをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

□ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために複数のキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

□ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

Ctrlキーを押しながら、英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力



KANAの文字が黒で表示されます。



Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力



KANAの文字が灰色で表示されます。

文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。

例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

- かな入力の場合

せ、か、い、し、` (濁点) ゆ (Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します)、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。



入力した読み当てはまる漢字が表示されます。

まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは
次のキーを使って修正します。

Backspaceキー：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Deleteキー：カーソルのある位置の1字を消します。

Escキー：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- かな入力の場合
ひ、ろ、か、`（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

3 英字を入力する

- 1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の[あ]をクリックして、[半角英数]を選ぶ。



ツールバーのいちばん左側が「A」になり、アルファベットが入力できる状態になります。

- 2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

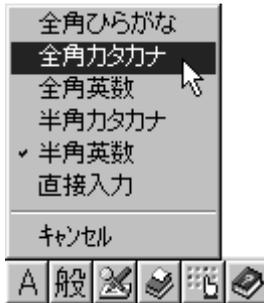
3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

4 カタカナを入力する

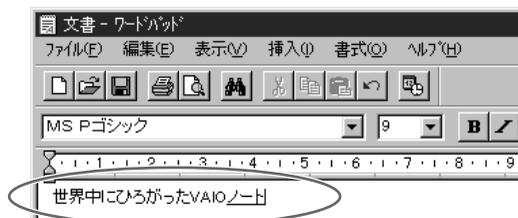
- 1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の[A]をクリックして、[全角カタカナ]を選ぶ。



ツールバーのいちばん左側が「ア」になり、カタカナが入力できる状態になります。

次のページにつづく

2 「ノート」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合
N、O、-(ハイフン)、T、Oの順にキーを押します。
 - かな入力の場合
の、 、との順にキーを押します。
- キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界に広がったVAIOノート」と入力できました。
キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、ツールバーにある  をクリックして、表示されるオンラインヘルプをご覧ください。

CD-ROM / CD-Rを使う

CD-ROMは、コンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読み取り専用の記録メディアです。大容量のデータを保存することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。市販のプログラムやゲームなどで使われることが多いメディアです。

CD-Rは、CD-ROMと似ていますが、コンピューターで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができる記録メディアです。付属のCD-R FS (CD Recordable File System) ソフトウェアを利用することにより、ハードディスクと同じような感覚で扱えます。

ここでは、CD-ROM / CD-Rの使いかたと、CD-Rの書き込み時の留意点について説明します。

CD-Rのフォーマットについて

CD-R FSを利用して未使用のCD-Rを使うには、「フォーマット」という作業が必要です。

CD-Rのフォーマットの方法については、「CD-R FSを使う」(47ページ)をご覧ください。

トレイアダプターとキャディについて

CD-ROMおよびCD-Rは、直接本機に入れず、付属のトレイアダプターまたはキャディに入れて使います。

トレイアダプター



キャディ



CD-ROM トレイアダプターとキャディのどちらでも使えます。

CD-R キャディをお使いください。

ご注意

キャディはディスクを保護するためのものです。トレイアダプターは構造上ほこりが付着しやすいため、CD-Rをお使いのときは必ずキャディをご使用ください。

トレイアダプターを使う

ここではトレイアダプターを使ってCD-ROMをCD-ROM / CD-Rドライブに入れる方法を説明します。

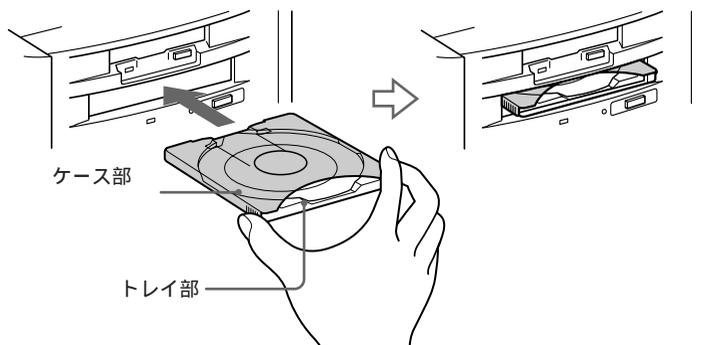
ご注意

CD-Rをお使いのときは必ずキャディをご使用ください。

- 1 本機の電源が入っていることを確認する。
- 2 本機の下の方前面パネルを押し込んでから、上の前面パネルを下にずらす。

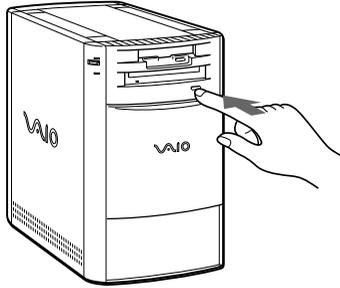


- 3 トレイアダプターをCD-ROM / CD-Rドライブに入れて、カチッと音がするまでトレイ部を軽く押し込む。トレイアダプターがCD-ROM / CD-Rドライブにセットされます。この状態でトレイ部だけ引き出せます。

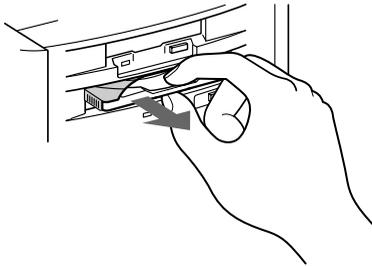


押し込みすぎてトレイアダプターがドライブ内に引き込まれてしまった場合は

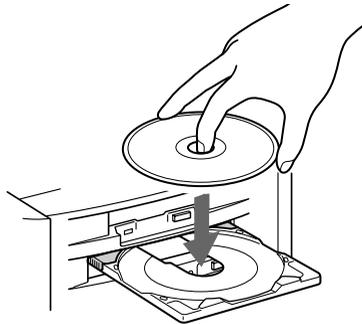
CD-ROMイジェクトボタンを押すと、トレイ部が引き出されます。



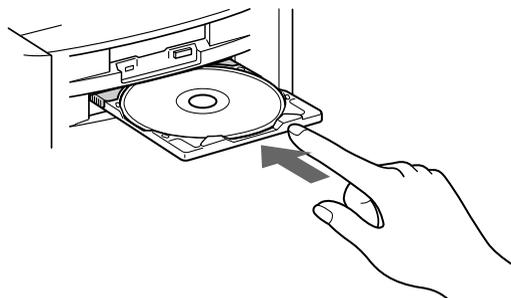
- 4** トレイアダプターの「DISC EJECT」と表示されてある部分をつまんでトレイ部を引き出す。



- 5** レーベル面(文字が書いてある面)を上にしてディスクをトレイ部の中央に置く。
ディスクの信号面(文字が印刷されていない面)には触れないようにご注意ください。



- 6** トレイ部の前面を軽く押し、さらにケースごとトレイアダプターを押し込む。



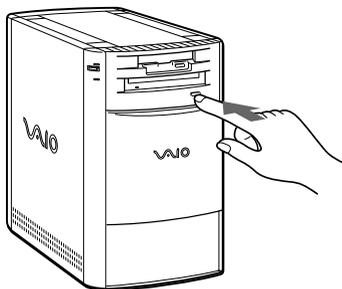
ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD-ROM / CD-Rドライブアクセスランプが点灯します。

ご注意

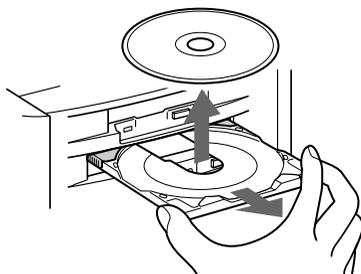
CD-ROM / CD-Rドライブをお使いのときは、前面パネルを閉めないでください。

ディスクを取り出すには

- 1** CD-ROM / CD-Rドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、CD-ROMイジェクトボタンを押す。トレイアダプターが自動的に引き出されます。



- 2** トレイ部を手でつまんで引き出し、ディスクを取り出す。



- 別のCD-ROMを再生したいときは、CD-ROMをトレイアダプターのトレイ部に置いて、トレイアダプターを押し込みます。
- トレイアダプターを取り出すには、「トレイアダプターを取り出すには」をご覧ください。

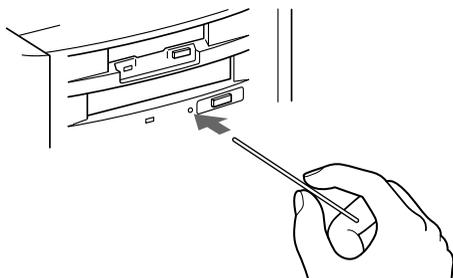
ご注意

CD-ROMイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

ディスクが取り出せないときは

前ページの操作を行ってもトレイアダプターが取り出せないときは、次の手順にしたがってください。

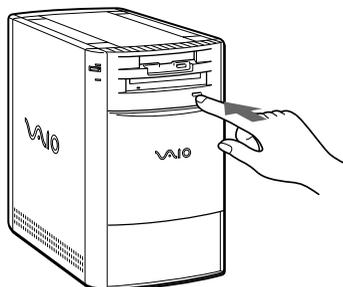
- 1 本機の電源を切る。
- 2 太い針金のようなもの(クリップでも代用可能)を、マニュアルイジェクト穴にまっすぐ押し込む。



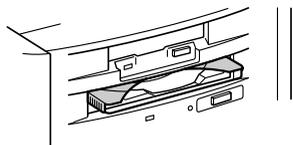
トレイアダプターを取り出すには

キャディをお使いになりたいなどの場合、あらかじめトレイアダプターを取り出しておく必要があります。

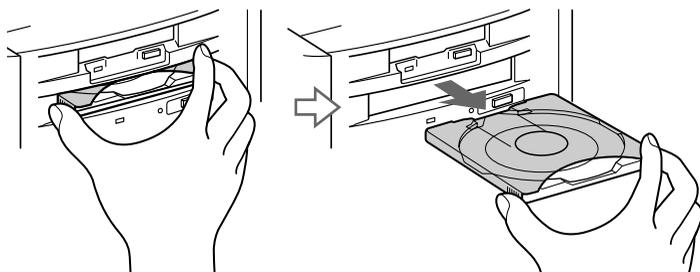
- 1 CD-ROMイジェクトボタンを押す。
トレイアダプターが自動的に引き出されます。



- 2** トレイ部を押し込んでケース部に収納し、トレイ部とケース部をそろえる。



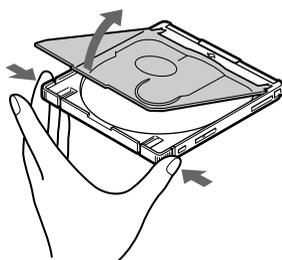
- 3** トレイアダプターのケース部の「CADDY EJECT」と表示してある部分をつまんで、まっすぐ引き抜く。



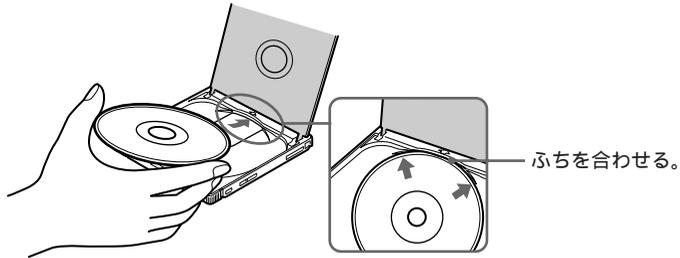
キャディを使う

ここではキャディを使ってCD-ROMまたはCD-RをCD-ROM / CD-Rドライブに入れる方法を説明します。

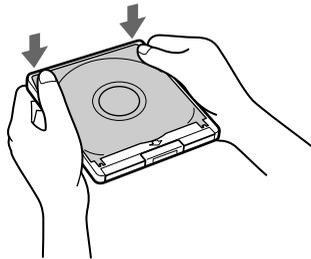
- 1** キャディの両端のタブを押しながら、キャディのカバーを開ける。



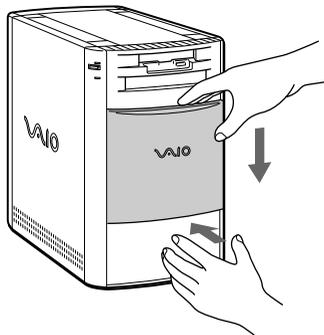
- 2** レーベル面を上にしてディスクをキャディに入れる。
 CD-Rディスクを入れるときは、記録面には絶対に触れないようにしてください。記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。



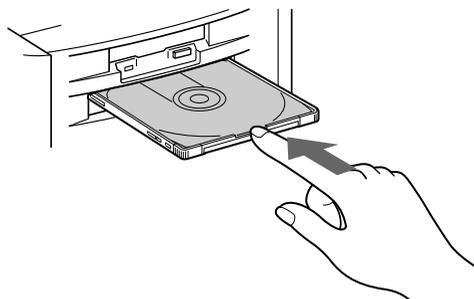
- 3** キャディのカバーを閉める。



- 4** 本機の電源が入っていることを確認する。
5 本機の下前面パネルを押し込んでから、上の前面パネルを下にずらす。



- 6** キャディをCD-ROM / CD-Rドライブに入れて、キャディがセットされるまで軽く押し込む。



すでに書き込まれたCD-RまたはCD-ROMを入れたときは、データの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD-ROM / CD-Rドライブアクセスランプが点灯します。

ご注意

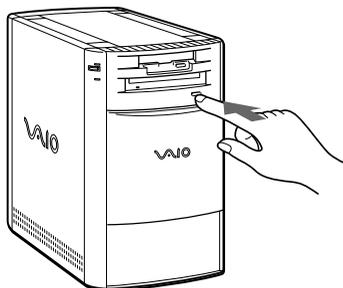
- トレイアダプターがCD-ROM / CD-Rドライブに入っているとキャディをセットすることはできません。トレイアダプターの取り出しかたについては、「トレイアダプターを取り出すには」(41ページ)をご覧ください。
- CD-ROM / CD-Rドライブをお使いときは前面パネルを閉めないでください。

ディスクを取り出すには

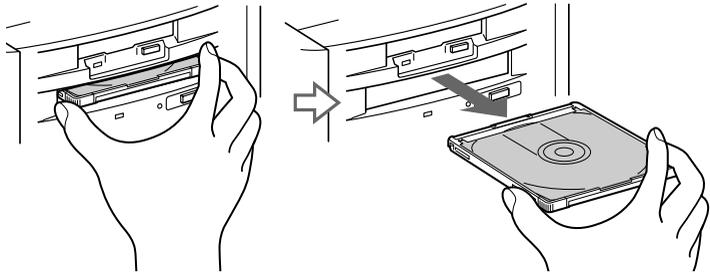
ご注意

CD-RはCD-ROMイジェクトボタンでは取り出せません。CD-Rの取り出しかたについて詳しくは、「ディスクを取り出す」(51ページ)をご覧ください。

- 1** CD-ROM / CD-Rドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、CD-ROMイジェクトボタンを押す。
キャディが自動的に引き出されます。



2 キャディをCD-ROM / CD-Rドライブから取り出す。



3 キャディのカバーを開けてディスクを取り出す。

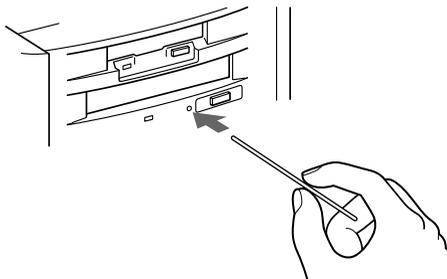
ご注意

CD-ROMイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

ディスクが取り出せないときは

前ページの操作を行ってもキャディが取り出せないときは、次の手順にしたがってください。

- 1** 本機の電源を切る。
- 2** 太い針金のようなもの(クリップでも代用可能)を、マニュアルイジェクト穴にまっすぐ押し込む。



使用できるディスク

本機のCD-ROM / CD-Rドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
ビデオCD	 
CD-R	 

本機には、CD-Rを使うためのCD-R FSソフトウェアがインストールされています。CD-R FSを利用すると、CD-Rをハードディスクを扱うような感覚で使うことができます。

ここではCD-R FSの使いかたのうち、以下について説明します。

- フォーマット
- ファイル操作
- ディスクの取り出し
- フリーズ

さらに詳しい操作内容については、CD-R FSのヘルプをご覧ください。

CD-Rをフォーマットする

未使用のCD-Rを使うにはあらかじめ「フォーマット」と呼ばれる作業が必要です。次の手順にしたがって操作します。

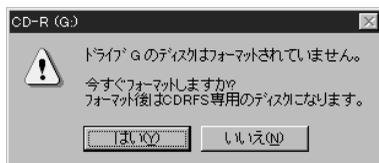
ご注意

未使用のCD-Rに対しては、必ずフォーマットを行ってください。フォーマットを行わないと本機はそのCD-Rを認識することができないため、CD-Rを使うことができません。

- 1 未使用のCD-Rをキャディに入れて、CD-ROM / CD-Rドライブに入れる。

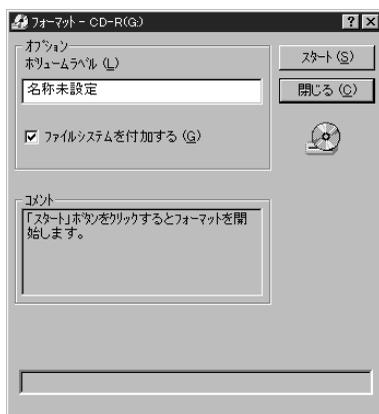
CD-ROM / CD-Rドライブへのキャディの入れかたについては、「キャディを使う」(42ページ)をご覧ください。

次の画面が表示されます。



次のページにつづく

- 2 [はい]をクリックする。
フォーマット画面が表示されます。



- 3 以下、画面の指示に従って操作する。

操作が分からなくなったら

ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには、[?]ボタンをクリックしてから、知りたい項目の上にポインターを合わせてもう一度クリックします。

ファイル进行操作する

CD-Rのファイル操作のしかたは、Windows 95でフロッピーディスクやハードディスクを操作するのとまったく同じです。しかし、CD-Rでは常にデータを書き足して(追記)いるので、フロッピーディスクやハードディスクのデータの書き換え(上書き)や削除と異なり、書き換えや削除をしたデータが消えてしまうわけではありません。このため、CD-Rでは誤ってデータを削除してしまっても、ヒストリー機能を使ってデータを再現できます。

ご注意

CD-Rでは常にデータを書き足すため、CD-Rの容量がいっぱいになると、それ以上書き込むことができなくなります。その際は、新しいCD-Rをご使用ください。

ヒストリー機能とは

ヒストリー機能とは、「書き込んだ」という事実を履歴(ヒストリー)としてディスク上に残しておく機能です。ヒストリー機能はCD-R上につけた「タグ」と呼ばれるマークを手がかりにしています。タグを追加するなど、ヒストリー機能を使うには、以下の手順にしたがって操作します。

- 1 [マイコンピュータ]をダブルクリックする。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



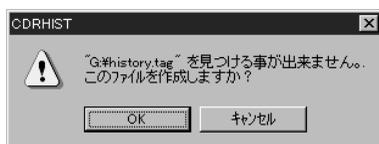
- 2 Gドライブのアイコンを右ボタンでクリックする。
ショートカットメニューが表示されます。



- 3** [履歴]をクリックする。
履歴画面が表示されます。



CD-R上にタグがないときは、次の画面が表示されますので、[OK]
をクリックすると履歴画面が表示されます。



- 4** 以下、画面の指示に従って操作する。

操作が分からなくなったら

ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには、[?]ボタンをクリックしてから、知りたい項目の上にポインターを合わせてもう一度クリックします。

ディスクを取り出す

CD-RはCD-ROMイジェクトボタンでは取り出せません。CD-RをCD-ROM / CD-Rドライブから取り出すには、以下の手順にしたがって操作します。

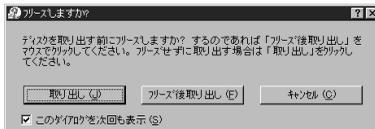
- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックする。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



- 2 Gドライブのアイコンを右ボタンでクリックする。



- 3 「取り出し」をクリックする。
以下の画面が表示されます。



- 4 「取り出し」をクリックする。
キャディが引き出されます。

書き込んだCD-Rを別のパソコンで読み込む(フリーズ)
本機で書き込み操作を行ったCD-Rを別のパソコンのCD-ROMドライブで読み込むには、あらかじめ「フリーズ」という操作を本機側で行う必要があります。フリーズを行うには、CD-Rディスク上に13.5Mバイトの空き容量が必要となります。

別のパソコンのCD-ROMドライブでは、フリーズを行う直前までのディスクの状態を読み込むことができます。フリーズ後に行ったファイルの追加、削除などの編集の結果をCD-ROMドライブで読むにはさらにフリーズを行う必要があります。

フリーズを行うには、以下の手順にしたがって操作してください。

- 1 [マイコンピュータ]をダブルクリックする。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。

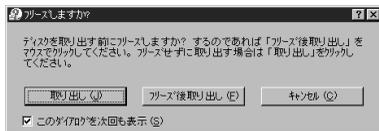


- 2 Gドライブのアイコンを右ボタンでクリックする。



3 [フリーズ後取り出し] をクリックする。

以下の画面が表示されます。



4 [フリーズ後取り出し] をクリックする。

フリーズを行った後、キャディが引き出されます。

操作が分からなくなったら

ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには、[?] ボタンをクリックしてから、知りたい項目の上にポインターを合わせてもう一度クリックします。

書き込み操作を行ったCD-Rを別のパソコンで使うにはCD-Rの読み取りを行うパソコン側にもCD-R FSがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、CD-RをCD-ROMドライブに入れるとCD-R FS(読み取り専用版、Windows 95用)のセットアッププログラムが自動的に起動し、インストールが行われます。画面の指示に従って操作してください。

ご注意

CD-ROMドライブによっては、CD-R FSに対応していないものがあります。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。

ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

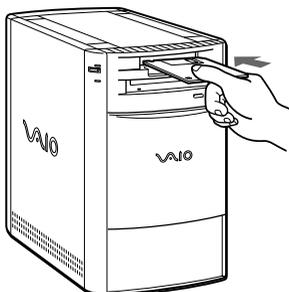
フロッピーディスクを入れる

次の手順にしたがってフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。

- 1 本機の下の前パネルを押し込んでから、上の前パネルを下にずらす。



- 2 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。



フロッピーディスクが完全にセットされるまで静かに押し込む。

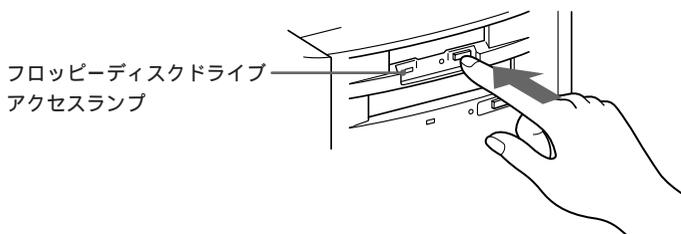
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。初期化とは何かについては、「初期化について」(56ページ)をご覧ください。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」(57ページ)をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

□ 書き込み可能

データを書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

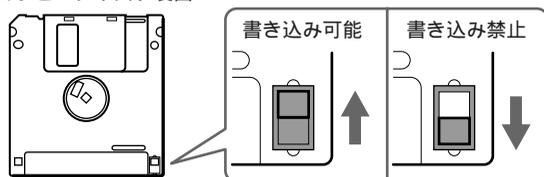
- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

□ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。次のような場合に書き込み禁止にしておきます。

- 内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないとき

フロッピーディスク裏面



初期化について

フロッピーディスクを使うには、「初期化」という作業が必要です。初期化とは、ちょうど真っ白なノートに罫線を引き、罫ごとに番号をふって、何ページのどこにどんなことを書き込んだか分かりやすくする作業に似ています。国によっていろいろな言語があるように、コンピューターの種類によって初期化の形式もさまざまです。お使いのコンピューターにあった初期化の形式でなければなりません。本機で初期化する方法については、Windows 95の説明書をご覧ください。

最近ではすでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化した場合は、そのデータは消去されます。

使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD(両面高密度)タイプと2DD(両面倍密度倍トラック)タイプのものであり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きとも可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きとも可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きとも可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE(ドライブスペース)、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られています。一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用で作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ

ここでは、インターネットとは何か、どうやってインターネットに接続するかについて説明しています。

インターネットとは？

世界中のコンピュータがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけではなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

世界中の情報を入手する

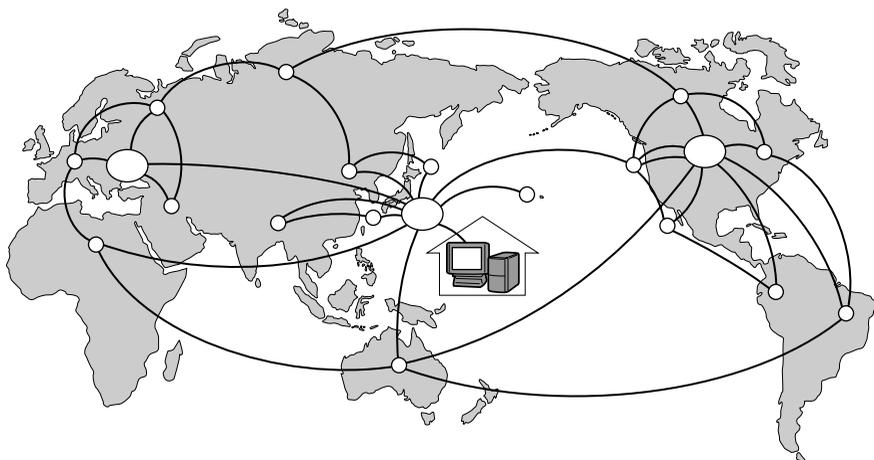
自宅やオフィスに居ながら、世界中の情報を入手できます。情報の種類もさまざまで、学術情報や企業の情報など仕事に使えるものから、趣味や遊びに関するものまで幅広く入手することができます。

世界に向けて情報を発信する

インターネットを経由して、お使いのパソコンから、文字や音声、画像などさまざまな情報を発信できます。

電子メールを利用する

電子メールとはインターネット上の手紙のようなもので、国内外を問わず瞬時に複数の相手に送ることができます。



インターネットを始めるには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネットを始めるにはインターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）と呼ばれる接続業者と契約し、電話回線を通じて接続する必要があります。

インターネットを始めるために必要なものは以下の通りです。

電話回線

電話回線には一般電話回線とISDN回線の2種類があります。本機では一般電話回線を使用します。

モデム

パソコンの情報を電話回線を通じてやり取りするために必要です。本機には内蔵されています。

次のページにつづく

プロバイダー

インターネットにつなぐために、プロバイダーと契約する必要があります。プロバイダーはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。プロバイダーと契約すると、WWW(ワールドワイドウェブ)を使って、いろいろな情報を記述したホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらのサービスの他に、契約するプロバイダーによっていろいろなサービスがあります。

プロバイダーと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、インターネットを楽しんでいる間、プロバイダーまでの電話料金がかかります。

現在では、数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。

ソフトウェア

プロバイダーと契約することで、インターネットに接続することはできますが、実際に情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。本機には、WWWを使ってホームページを見るためのソフトウェア(ウェブブラウザ)として、Netscape NavigatorソフトウェアとInternet Explorerソフトウェアが付属しています。

インターネットを始める

インターネットを始めるには以下の流れに沿って行います。

準備1 電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につながます。
詳しくは「電話回線につなぐ」(77ページ)をご覧ください。

準備2 インターネットサービスプロバイダーと契約する

- 本機にはソニーコミュニケーションネットワーク(株)の運営する、So-netのスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とその後の設定をより簡単に行えます。詳しくは付属の「会員募集のご案内」をご覧ください。
- パソコン通信の運営会社にもインターネットのサービスを提供しているところがあります。詳しくは、本機に付属の各社のパンフレットをご覧ください。
- ご自分にあったプロバイダーがない場合は、他のプロバイダーを探します。画面上の[The Microsoft Network]アイコンをダブルクリックして、表示されるメッセージに従って操作してください。

準備3 接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示に従ってください。

準備4 ソフトウェアを起動する

使用するサービスに応じてソフトウェアを起動します。本機では、WWWでホームページを見るためにNetscape Navigator ソフトウェアとInternet Explorerソフトウェアの2種類が付属しています。

パソコン通信を楽しむ

パソコン通信を楽しむためには、パソコン通信の運営会社と契約する必要があります。

会員が多い、自分の興味・関心のある分野に詳しい人が多く参加している、どうしても利用したいサービスがある、などといった基準で運営会社を選ぶと、よりパソコン通信を楽しめます。

「パソコン通信」とは？

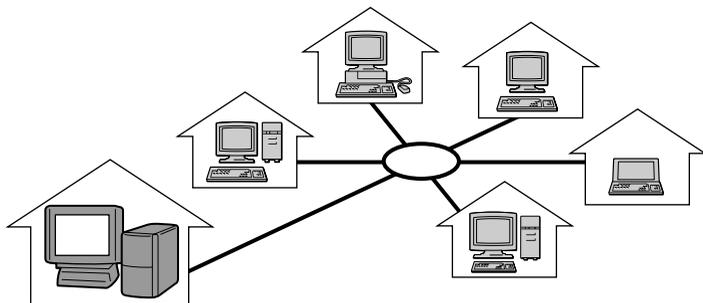
パソコン通信には運営主体である大手の運営会社が多数設立されていて、多くの人が参加しています。

パソコン通信の良いところは、自分の興味のある分野の電子会議室を利用することで、同じような関心を持っている人と、ネットワーク上で交流を深めることができる点です。このような会議室は、さまざまな分野で開設されています。また、ネットワーク上の商店を利用したオンラインショッピングも楽しめます。

「地球規模のインターネット」に対して、「生活に密着した地域中心」を方針としている小規模なパソコン通信のネットワークもあります。また、現在ではパソコン通信を通してインターネットにつながくこともできるようになりました。

パソコン通信を利用して、以下のようなことができます。

- フォーラムなどの電子会議室に参加する
- 有料データベース、オンラインショッピングを使う
- 電子メールをやり取りする



パソコン通信の運営会社について

現在では数多くのパソコン通信の運営会社がありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあった運営会社と契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれの運営会社にお問い合わせください。また、契約時にクレジットカードが必要になる運営会社もあります。

準備1 電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは「電話回線につなぐ」(77ページ)をご覧ください。

準備2 パソコン通信の運営会社と契約する

本機には、パソコン通信運営会社のパソコン通信のスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。

準備3 パソコン通信用ソフトウェアを起動する

利用するパソコン通信に応じたソフトウェアを起動します。パソコン通信用ソフトウェアの種類については別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

電話 / ファックスを使う

本機に電話回線をつなぐと、普通の電話と同じように電話をかけ、相手と話せます。また、本機に内蔵しているモデムはファックスにも対応していますので、電話回線をつないでファックスを送受信することもできます。電話をかけたりファックスを送ったりするためには、付属の Communication Centerソフトウェアを使用します。電話回線へのつなぎかたについては、「電話回線につなぐ」(77ページ)をご覧ください。

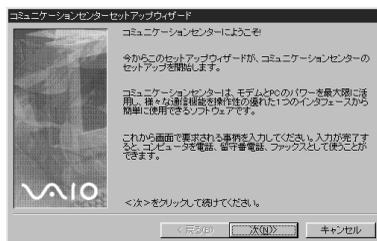
ここでは、①電話をかける、②電話を受ける、③留守番電話として使う、④ファックスを送信する、⑤ファックスを受信する、という基本的な使いかたのみ説明します。

機能の詳細な説明や制限事項などについては、Communication Centerに付属しているヘルプをご覧ください。

電話 / ファックスを準備する

本機で電話 / ファックスを使うためには、本機を電話回線につないでから、Communication Centerソフトウェアを起動する必要があります。

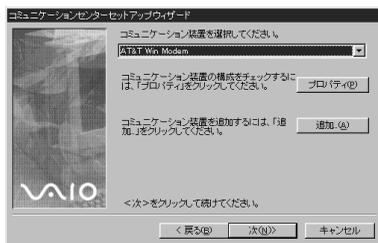
- 1 本機を電話回線に接続する。
電話回線へのつなぎかたについて詳しくは、「電話回線につなぐ」(77ページ)をご覧ください。
- 2 [スタート]ボタンをクリックして、ポインターを[プログラム] [Communication Center]の順に合わせ、[Communication Centerの起動]をクリックする。
Communication Centerソフトウェアが起動し、「セットアップウィザード」が表示されます。



3 [次>]をクリックする。

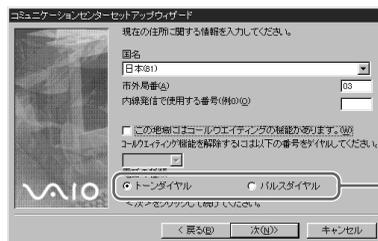
画面の指示にしたがって必要な情報を入力し、[次>]をクリックします。

前の画面を見るには、[<戻る]をクリックします。



4 電話の種類を選ぶ。

お使いの電話回線の種類を選びます。



お使いの電話回線がプッシュホン回線のときは[トーンダイヤル]を、ダイヤル回線のときは[パルスダイヤル]をクリックして選びます。

5 電話番号を入力する。

自宅電話番号を入力します。勤務先電話番号、ファックス番号は必要がなければ空欄のままでもかまいません。



引き続き画面の指示にしたがって必要な情報を入力します。

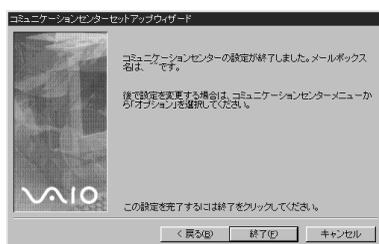
6 応答の設定をする。

応答メッセージや、自動応答するまでの呼び出し回数などを設定します。



7 [終了]をクリックする。

画面の指示に従ってすべて入力したら、[終了]をクリックします。



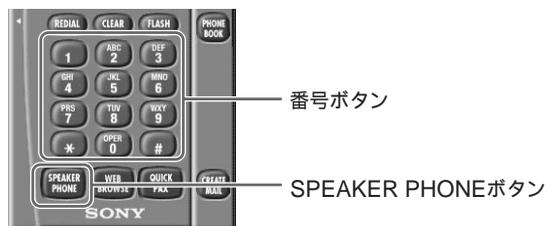
これで電話をかけたたりファックスを送受信できるようになりました。

電話をかける

64ページの「電話 / ファックスを準備する」が終わったら、電話をかけてみましょう。

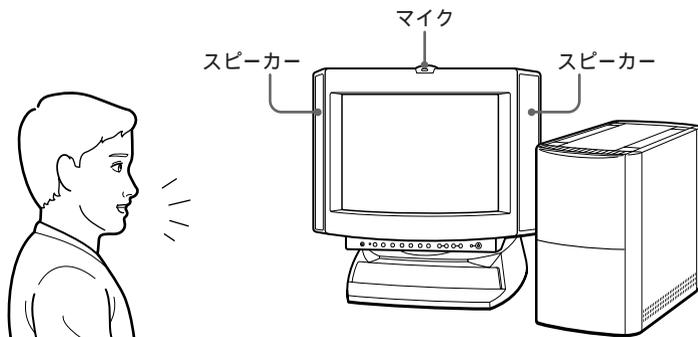
1 画面上の電話番号ボタンをクリックして、相手先の電話番号を入力する。

電話番号はキーボードでも入力できます。



電話番号を入力すると、左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「DIAL」ボタンに変わります。

- 2 [DIAL]をクリックする。
手順1で指定した電話番号に自動的にダイヤルします。
ダイヤルを始めると、左下の「DIAL」ボタンが「HANGUP」ボタンに変わります。
- 3 相手が電話に出たら、ディスプレイに内蔵のマイクまたはつないだマイクに向かって話す。



本機専用のディスプレイをつないだときは、相手の音声はディスプレイの内蔵スピーカーから聞こえます。アクティブスピーカーをつないだときは、そのスピーカーから相手の音声聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

電話を切るには

画面左下の[HANGUP]をクリックします。

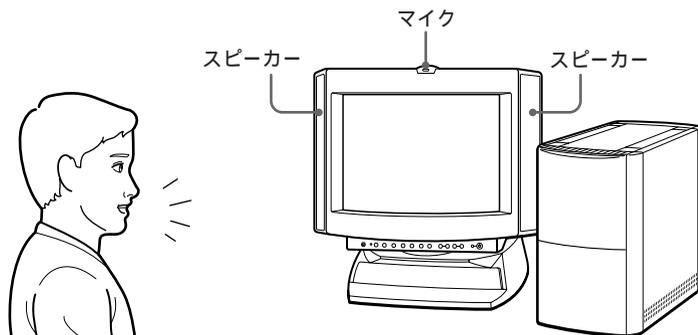
電話を受ける

本機で電話を受けることもできます。

- 1 画面左下の[ANSWER]をクリックする。
電話がかかってくると、画面左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「ANSWER」ボタンに変わります。



- 2 ディスプレイに内蔵のマイクまたはつないだマイクに向かって話す。



本機専用のディスプレイをつないだときは、相手の音声はディスプレイの内蔵スピーカーから聞こえます。アクティブスピーカーをつないだときは、そのスピーカーから相手の音声聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

留守番電話として使う

本機は留守番電話として使用できるようにあらかじめ設定されています。電話がかかってくると、すでに設定されているメッセージまたはご自分で録音したメッセージで自動応答します。

ファックスのみに応答することなどでもできます。

詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

5 [ファックス送信]をクリックする。

ファックス送信が始まります。

送信をやめるときは、[キャンセル]をクリックします。

名前や電話番号などをファックスに記載して送信するには送信シート情報に名前や電話番号をあらかじめ入力しておく、ファックスを送信するときに自動的に入力した情報がファックスに記載されます。送信シート情報について詳しくは「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

ファックスを受信する

ファックスを受信するときは、送られてきたファックスを画像データとして直接受け取るため、あとでファックスを見ながら必要な内容をパソコンに入力する手間が省けます。

本機は電話がかかってくると、自動的にファックスを受信します。

通話中でもファックスを受信できます。詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

ご注意

受け取ったファックスは画像データとして取り扱われます。そのため、ファックス中の文字をそのまま文字テキストとして利用することはできません。

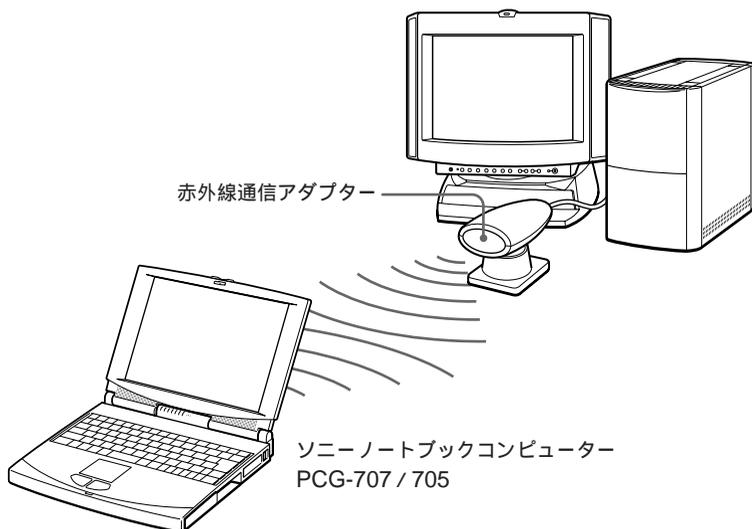
赤外線 (IrDA) でデータを交換する

本機に接続した赤外線通信アダプターを使って、IrDA対応の赤外線ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつなぐずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けます。

パソコンだけでなく、赤外線ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラDSC-F1/F2にもIrDA対応の赤外線ポートがついています。デジタルスチルカメラで撮影した画像データを本機に送信し、本機に付属の「PictureGear Lite」ソフトウェアを使って管理するという使いかたもできます。

赤外線通信アダプターの接続のしかたについて詳しくは、「赤外線通信アダプターをつなぐ」(80ページ)をご覧ください。

ノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。ソニー製ノートブックコンピューターを例に配置方法を示します。



実際にデータをやりとりするには、付属の「TranXit」ソフトウェアを使います。操作方法について詳しくは、「TranXit」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。

- 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
- 赤外線ポートは真正面で向き合うように配置する。(データ通信が可能な範囲は、距離が約10~60cmで、中心からの角度が左右15度以内です。)
- 赤外線ポート間に物を置かない。
- 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。



赤外線ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。

詳しくは、お持ちの機器を購入した販売店にご相談ください。

ビデオ編集をする

自分で録画した映像を本機に読み込んで編集することができます。また、テレビ番組を本機のハードディスクに録画することもできます。ビデオ編集するには、付属の「Slipclip」ソフトウェアを使います。ビデオ編集するには以下の流れに沿って行います。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

自分で録画した映像を編集するとき

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーを本機に接続する

ビデオデッキの接続について詳しくは、「ビデオデッキをつなぐ」(85ページ)をご覧ください。
ビデオカメラレコーダーの接続について詳しくは、「ビデオカメラレコーダーをつなぐ」(87ページ)をご覧ください。

「Slipclip」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Slipclip」を使って編集します。「Slipclip」の使い方について詳しくは、「Slipclip」の取扱説明書をご覧ください。

テレビ番組をハードディスクに録画するとき

本機にアンテナをつなぐ

アンテナのつなぎかたについて詳しくは、「アンテナをつなぐ」(83ページ)をご覧ください。

「Slipclip」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Slipclip」を使って操作します。「Slipclip」の使い方について詳しくは、「Slipclip」の取扱説明書をご覧ください。

音楽CD / ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)

再生するには付属の「Media Bar」ソフトウェアを使います。Media Barを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上的[AV再生のセットアップ]をダブルクリックする

Media Barを設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

画面の指示に従って必要な項目を入力します。

本機を再起動する

再起動すると、画面上部に「Media Bar」操作画面が表示されます。「Media Bar」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

テレビを見る

本機につないだディスプレイでテレビを見ることができます。テレビ番組を楽しみながら、他のソフトウェアの操作をすることもできます。テレビを見るには、以下の流れに沿って行います。

本機にアンテナをつなぐ

アンテナのつなぎかたについては、「アンテナをつなぐ」(83ページ)をご覧ください。

TVチューナー画面を開く

[スタート]メニューから[VAIO]にポインターを合わせ、[TV]をクリックします。

チューナーの設定をする

表示されるメッセージに従ってチューナーの設定を行ってください。

番組を選ぶ

操作について詳しくは、「TV」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

□ 画像データを管理する

「PictureGear Lite」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データをまとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear Lite」の取扱説明書をご覧ください。

□ 仮想世界を散歩する

「Community Place Browser」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。使いかたについて詳しくは、「Community Place Browser」の取扱説明書をご覧ください。

□ 地図を見る

「Navin' You Lite」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている東京23区版の地図のほか、ナビ研規格に準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You Lite」の取扱説明書をご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- カラオケで歌う

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

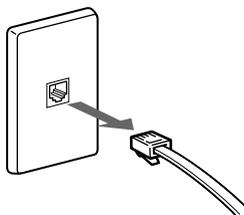
周辺機器を接続する

電話回線につなぐ

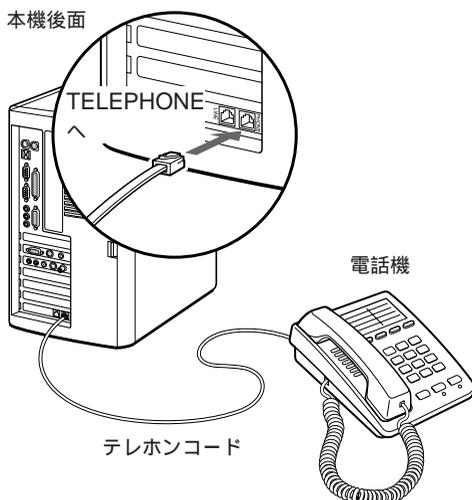
本機には、モデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、パソコン通信やインターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。

本機の後面パネルにはモジュージャックが2つあります。

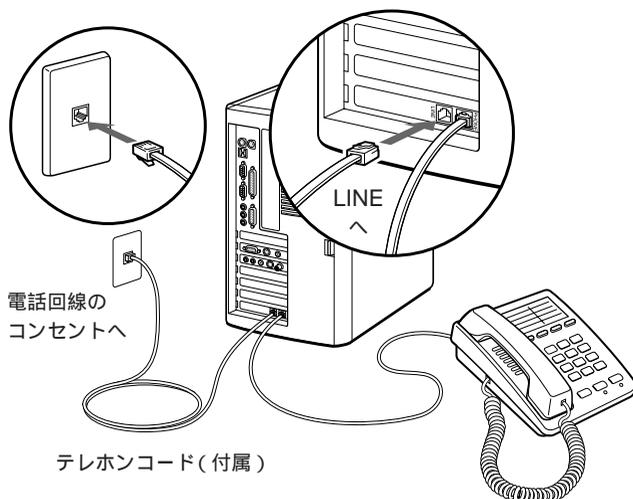
- 1 電話機のテレホンコードを電話回線のコンセントから外す。



- 2 手順1で外したテレホンコードを本機のTELEPHONEジャックにカチッと音がするまで差し込む。



- 3 付属のテレホンコードの一方を本機のLINEジャックへ、もう一方を電話回線のコンセントへ差し込む。

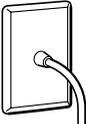


ご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。
- 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定をする必要があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラー型	不要(そのままつなぐことができます)
	
3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
	
直付け型ローゼット ¹⁾	モジュラーローゼットTL-32CRなど
	
埋め込み型 ²⁾	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31
	

¹⁾ 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。局番なしの116番へお申し込みください。

²⁾ 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

ご注意

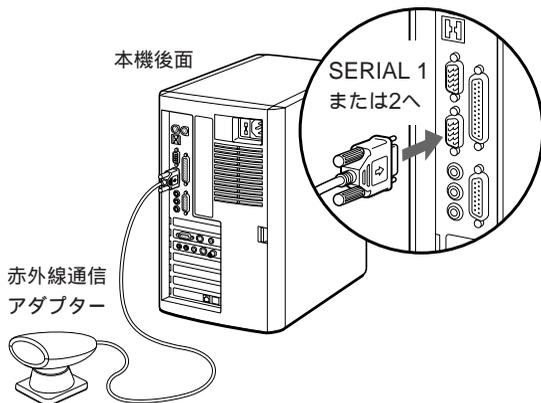
ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

赤外線通信アダプターをつなぐ

赤外線通信アダプターを使うと、赤外線データ通信を行うことができます。

ご注意

- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。



赤外線通信アダプターを使うには

本機にはSERIAL端子が2つあり、SERIAL 1、2端子のどちらにつないだかによって、本機側の設定をする必要があります。以下の手順に従って設定します。

- 1 [スタート]メニューから[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



2 [赤外線モニター]をダブルクリックする。

- SERIAL 1端子につないだときは

受光部の範囲内に他のデバイス(機器)があれば「赤外線モニター」ダイアログボックスに「範囲内に利用可能な赤外線デバイスが**個あります。」とメッセージが表示されます。[OK]をクリックしてください。

- SERIAL 2端子につないだときは

「オプション」タブをクリックして、「次のポートで赤外線通信を使用可能にする」から「COM2」を選び、[OK]をクリックしてください。

ご注意

TranXitソフトウェアを使う場合には、ソフトウェアの設定を行う必要があります。詳しくは「TranXit」の取扱説明書をご覧ください。

AV機器をつなぐ

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。目的によって接続のしかたが異なります。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	詳しくは
<ul style="list-style-type: none">•ディスプレイでテレビ番組を見たい•テレビ番組を本機のハードディスクに録画したい	本機とアンテナ端子をつなぎます。アンテナ端子に直接本機をつなぐ場合と、すでにAV機器がアンテナ端子につながっている場合とで接続のしかたが異なります。接続のしかたについては「アンテナをつなぐ」(83ページ)をご覧ください。
<ul style="list-style-type: none">•ビデオデッキの再生画像を本機につないだディスプレイで見たい•本機に読み込んで編集したい	本機とビデオデッキをつなぎます。接続のしかたについては「ビデオデッキをつなぐ」(85ページ)をご覧ください。
<ul style="list-style-type: none">•ビデオカメラレコーダーで撮影した映像を本機につないだディスプレイで見たい•本機に映像を読み込んで編集したい	本機とビデオカメラレコーダーを接続します。接続のしかたについては「ビデオカメラレコーダーをつなぐ」(87ページ)をご覧ください。
デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に読み込みたい	本機とデジタルスチルカメラをつなぎます。接続のしかたについては「デジタルスチルカメラを使う」(89ページ)をご覧ください。
ディスプレイに映る映像をテレビや液晶プロジェクターで見たい	本機とテレビや液晶プロジェクターを接続します。接続のしかたについては「テレビをつなぐ」(90ページ)または「液晶プロジェクターにつなぐ」(91ページ)をご覧ください。

アンテナをつなぐ

本機にはTVチューナーが内蔵されているので、アンテナを本機につないで、ディスプレイでテレビ番組を見ることができます。アンテナ接続ケーブル(付属)を使って本機につなぎます。

本機を直接壁のアンテナ端子につなぐ場合と、すでに他のAV機器がアンテナ端子につながっている場合とでは接続のしかたが異なります。

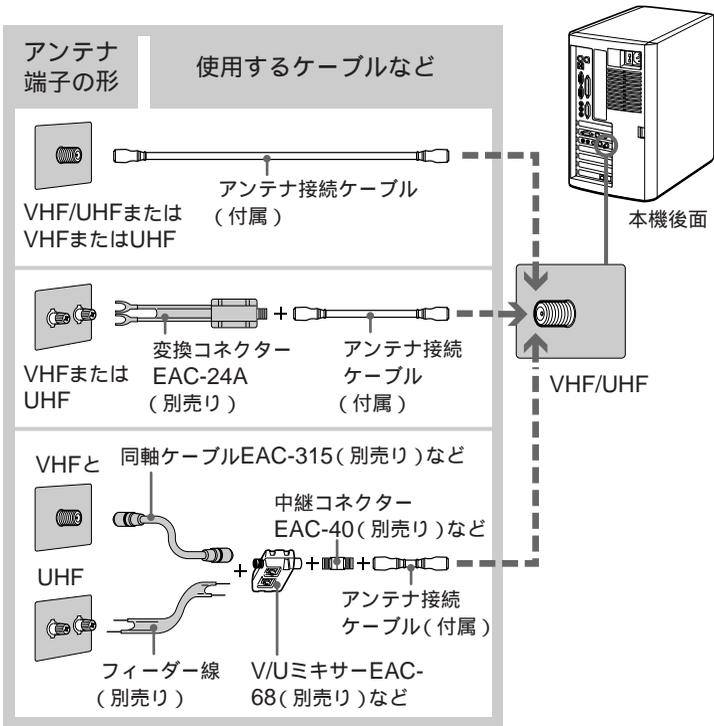
ご注意

- 本機およびディスプレイの電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

本機を直接壁のアンテナ端子につなぐ場合

アンテナのつなぎかたは、部屋のアンテナ端子の形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。

なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。



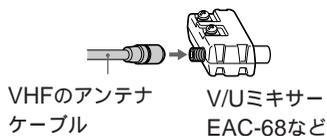
ご注意

フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。

フィーダー線をご使用になる場合はテレビ本体からできるだけ離してください。

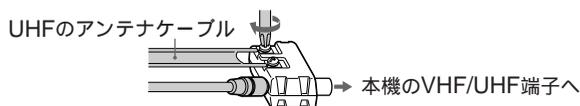
V/Uミキサーをつなぐには

1 VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサーにつなぐ。

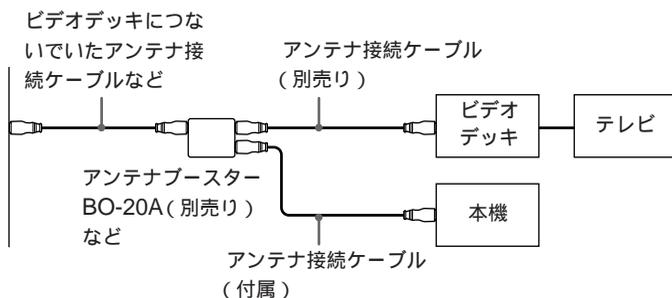


2 UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサーにつなぐ。

ネジをゆるめて芯線を巻きつけ、
ネジを締める。



すでにAV機器が壁のアンテナ端子につながっている場合アンテナブースター(別売り)を使って接続します。アンテナ端子とアンテナブースターのつなぎかたは、部屋のアンテナ端子の形や使用しているケーブルにより異なります。83ページの例から最も近いものを選び接続してください。



テレビを見たり、録画するには

「テレビを見る」(75ページ)をご覧ください。また、付属の「Slipclip」ソフトウェアを使ってテレビ番組を録画することができます。テレビ番組の画像をSlipclipで扱う方法については、「Slipclip」の取扱説明書をご覧ください。

ビデオデッキをつなぐ

ビデオデッキを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの再生画像を見たり、再生画像を読み込んで編集することができます。

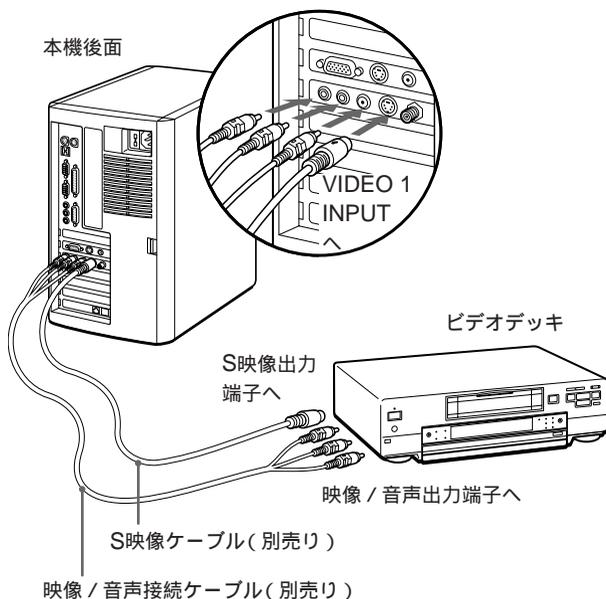
映像 / 音声接続ケーブル(別売り)を使って、本機とビデオデッキをつなぎます。ビデオデッキにS映像出力端子がある場合は、本機のS映像入力端子とつなぐことにより、よりきれいな映像を本機に読み込めます。本機には前面および後面パネルにそれぞれ映像 / 音声入力端子があり、どちらの入力端子を使うこともできます。

ビデオデッキの取扱説明書もあわせてご覧ください。

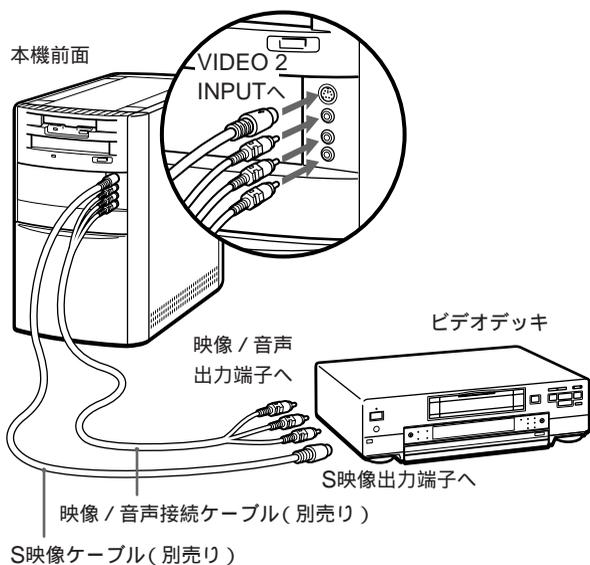
ご注意

- 本機とビデオデッキの電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

後面パネルの端子を使うとき



前面パネルの端子を使うとき



ビデオデッキの映像を見たり編集するには
付属の「Slipclip」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの映像を
Slipclipで扱う方法については、Slipclipの取扱説明書をご覧ください。

ビデオカメラレコーダーをつなぐ

ビデオカメラレコーダーを本機につないで、撮影した映像をディスプレイで見たり、映像を読み込んで編集できます。

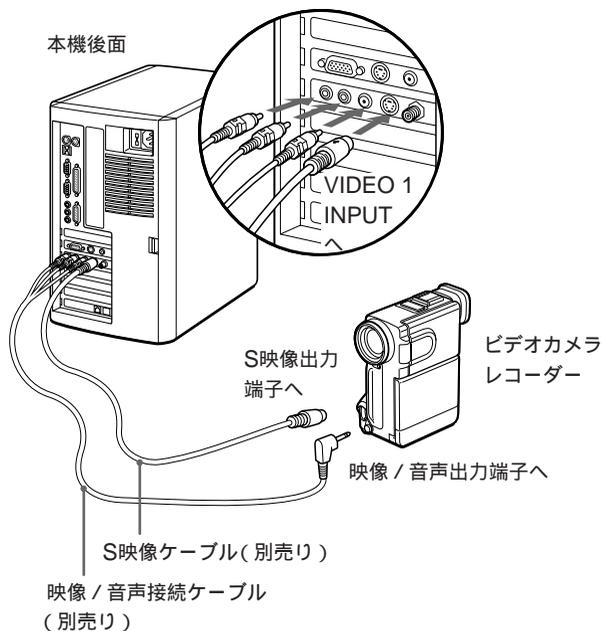
映像 / 音声接続ケーブル(別売り)を使って、本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。ビデオカメラレコーダーにS映像出力端子がある場合は、本機のS映像入力端子とつなぐことにより、よりきれいな映像を本機に読み込みます。本機には前面および後面パネルにそれぞれ映像 / 音声入力端子があり、どちらの入力端子を使うこともできます。

ビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

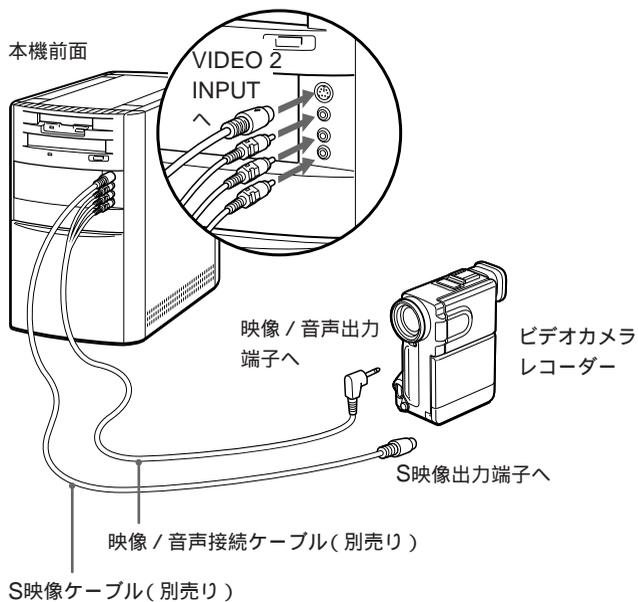
ご注意

- 本機とビデオカメラレコーダーの電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

後面パネルの端子を使うとき



前面パネルの端子を使うとき



ビデオカメラレコーダーの映像を見たり編集するには
付属の「Slipclip」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの画像を
Slipclipで扱う方法については、Slipclipの取扱説明書をご覧ください。

デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込みます。ここではソニーデジタルスチルカメラDSC-F1 / F2と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

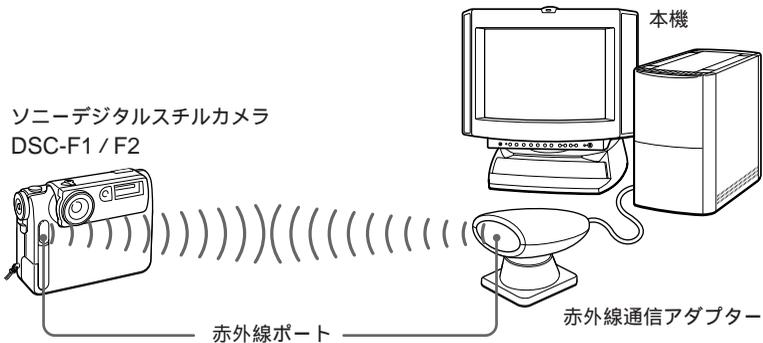
ご注意

接続のしかたや画像の読み込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラDSC-F1 / F2を使う

設置する

DSC-F1 / F2には赤外線通信機能があるので、ケーブル接続は必要ありません。赤外線通信アダプターとDSC-F1 / F2の赤外線ポートを真正面向き合うように配置します。



赤外線通信アダプターの接続のしかたについては、「赤外線通信アダプターをつなぐ」(80ページ)をご覧ください。

画像を取り込む

付属のPictureGear Liteソフトウェアを使って、画像を取り込みます。操作方法について詳しくは、PictureGear Liteの取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラをつなぐ

DSC-F1 / F2以外のデジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、デジタルスチルカメラと本機のSERIAL 1または2端子をケーブルでつなぐなどの方法があります。接続するケーブルや画面を取り込むためのソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用用品をお使いください。

テレビにつなぐ

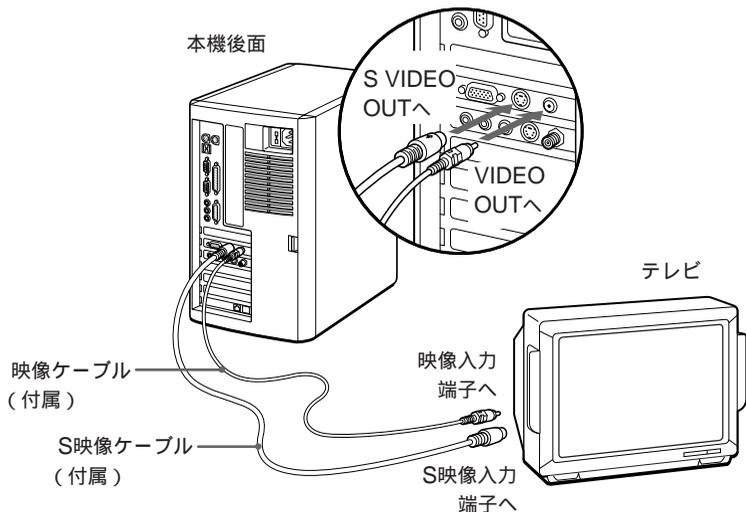
ディスプレイの代わりにテレビをつないでパソコンの画像を表示することができます。

映像ケーブル(付属)を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

本機側で画面の解像度を640×480ドットまたは800×600ドットに変更し、テレビ出力を有効にします。解像度の変更、テレビ出力の設定について詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」の中の「ディスプレイの詳細」(141ページ)をご覧ください。

ご注意

- テレビの映像表示能力はディスプレイに比べて解像度や色再現能力が低く、ディスプレイと同じ画質は得られません。
- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機にテレビをつないだときは、テレビ側から音声は出ません。音声は本機に接続したスピーカーから出ます。
- 本機にテレビをつないだときは、ディスプレイの画面の位置やサイズがずれることがあります。
- 本機が省電力モードに入っているときは、テレビには何も映りません。省電力モードについて詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」の中の「スクリーン・セーバー」(137ページ)または「Advancedメニュー(システム構成の詳細の設定)」の中の「Power Management Configuration(パワーマネージメントの設定)」(123ページ)をご覧ください。

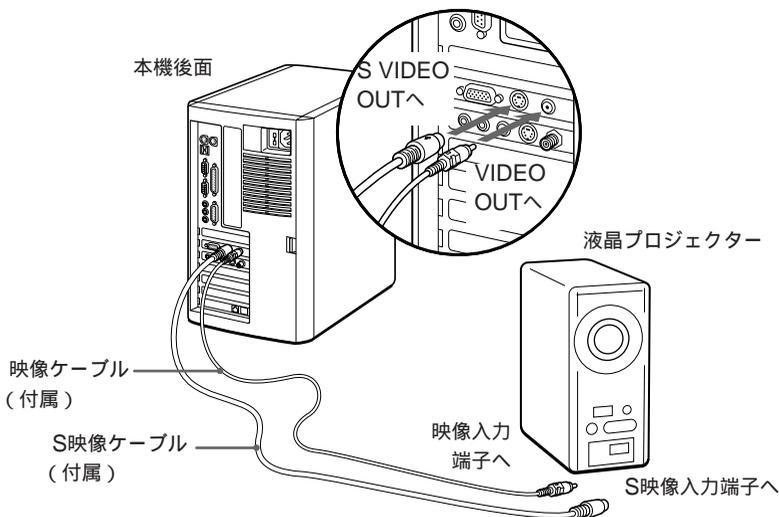


液晶プロジェクターにつなぐ

液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機にプロジェクターをつないだときは、プロジェクター側から音声は出ません。



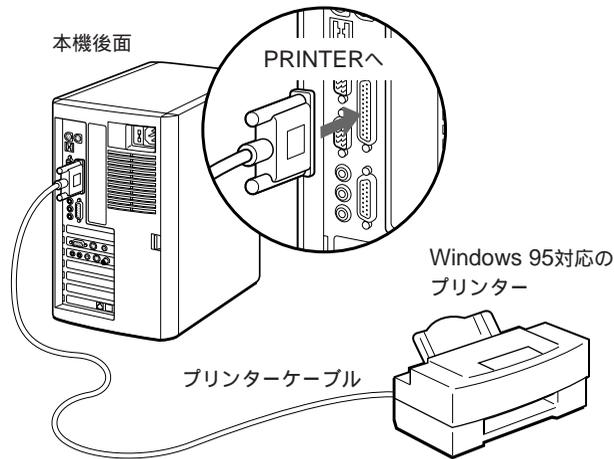
プリンターをつなぐ

Windows 95に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。

プリンターケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 95に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーを本機にインストールする。
詳しくはプリンターおよびWindows 95の取扱説明書をご覧ください。

◆ドライバーとは

プリンターなど、パソコンの周辺機器の動作を制御するためのソフトウェアのことです。ここでは、プリンターのドライバーを本機にインストールすることにより、本機からプリンターの動作をコントロールできるようになります。

ジョイスティック / MIDI機器をつなぐ

ジョイスティックをつないでゲームをよりリアルに楽しんだり、MIDI (Musical Instrument Digital Interface) に対応した電子楽器をつないで音楽を楽しめます。

ご注意

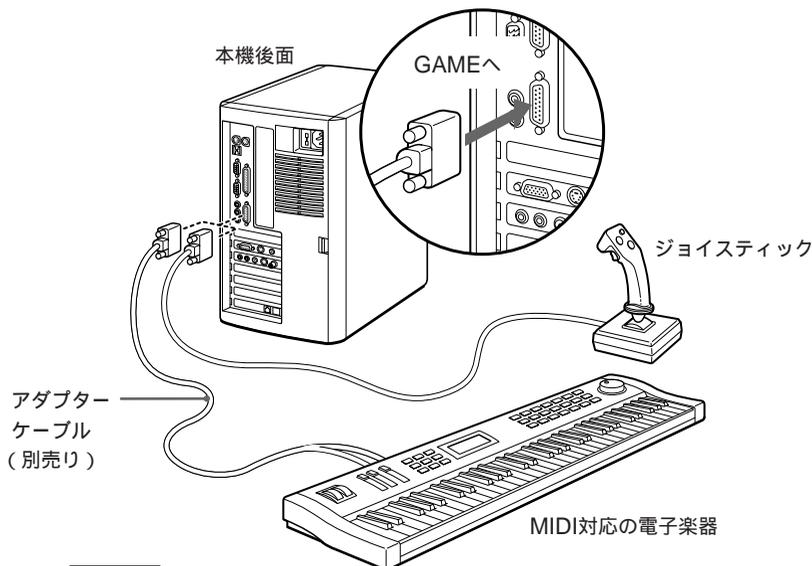
- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

ジョイスティックとは

ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする柄の部分と、操作をコントロールするボタンから成っています。ジョイスティックを使うと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。ジョイスティックをつなぐときは、ジョイスティックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MIDI機器とは

MIDIとは、電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。MIDI機器をつなぐときは、電子楽器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



ご注意

MIDIに対応していない電子楽器はつなげません。

リファレンス編

第2章

ここでは、本機に拡張ボードを増設する方法や、本機のハードウェアとしての設定状態を変更する方法を説明しています。ここからの情報は、本機をさらにパワーアップしてお使いになるときに必要になるもので、通常お使いになる場合には特に操作する必要はありません。本機の操作やパソコンについて習熟されている方がお読みください。

本体を拡張する

拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」または「ISA」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 95に対応しているかどうかの他、PCIまたはISA規格に対応していることをご確認ください。

本機では、空きスロット(拡張ボードを増設できる場所)が3ヶ所あり、下のどちらかの組み合わせで合計3枚まで拡張ボードを取り付けることができます。

- PCI拡張ボード2枚、ISA拡張ボード1枚
- PCI拡張ボード1枚、ISA拡張ボード2枚

プラグアンドプレイについて

Windows 95では、より簡単に拡張ボードの増設ができるように、「プラグアンドプレイ」という方式を採用しています。プラグアンドプレイに対応した拡張ボードを使うと、ボードを取り付けた後の設定は自動的に行われるので、ご自分でめんどろな設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号 (IRQ)、メモリー、DMA、I/Oポートなどの「資源」(リソース)を使用します。パソコン本体が使用しているリソースと同じものを割り当てることはできないので、ボードと本機のリソースの設定を考慮の上、リソースの割り当てを決めなければなりません。

なお、プラグアンドプレイに対応した拡張ボードは本機が使用しているリソースを避けるように自動的にリソースが設定されます。本機で使用しているリソースを変えるには、「Advancedメニュー(システム構成の詳細の設定)」の「Peripheral Configuration(各種インターフェースの設定)」(119ページ)をご覧ください。

現在使用中のリソースを確認するには、以下の手順に従います。

- 1** [マイコンピュータ]を右クリックする。
ショートカットメニューが表示されます。
- 2** [プロパティ]をクリックする。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** [デバイスマネージャ]タブをクリックする。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 4** [コンピュータ]をダブルクリックする。
「コンピュータのプロパティ」ウィンドウに現在使用中のリソースが表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切る

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切るには」(21ページ)をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」(99ページ)をご覧ください。

本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」(20ページ)をご覧ください。

ドライバーの設定、インストールを行う

プラグアンドプレイ対応の拡張ボードの場合にはメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない拡張ボードの場合には、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。

ドライバーとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバーも設定し直す必要があります。

拡張ボードを取り付ける

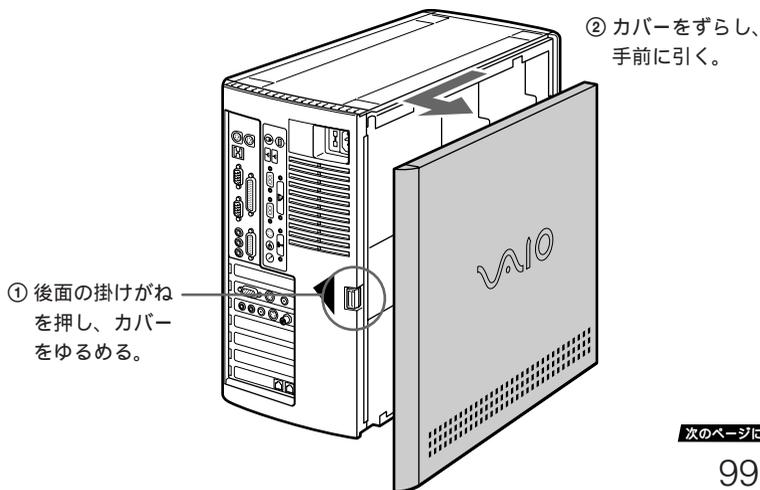
以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けときの注意

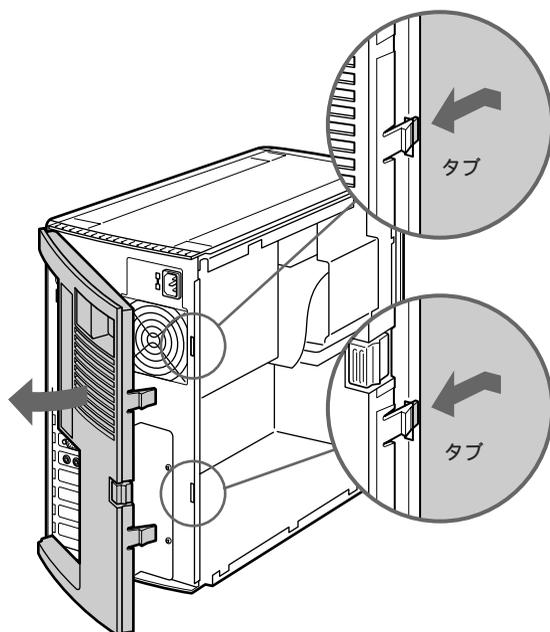
- 拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が破壊されることがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクター部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。

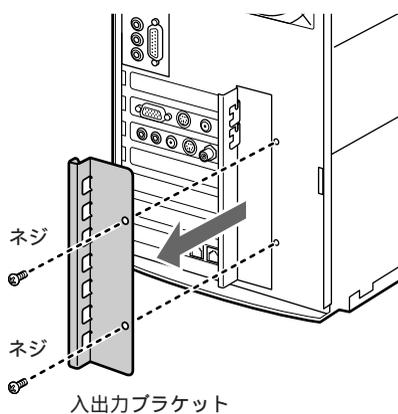
2 左のカバーを取りはずす。



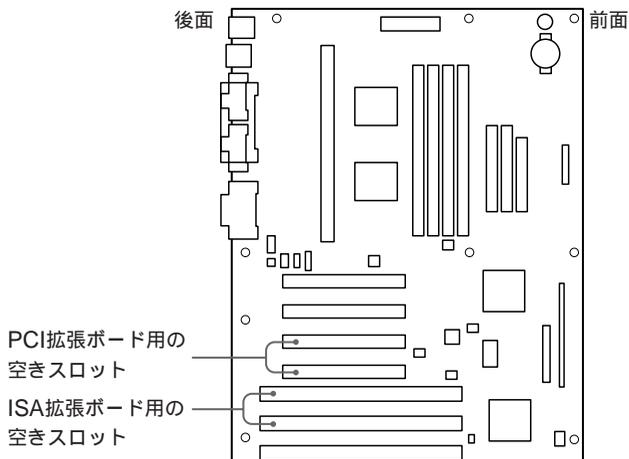
3 タブを押し、後面のカバーを取りはずす。



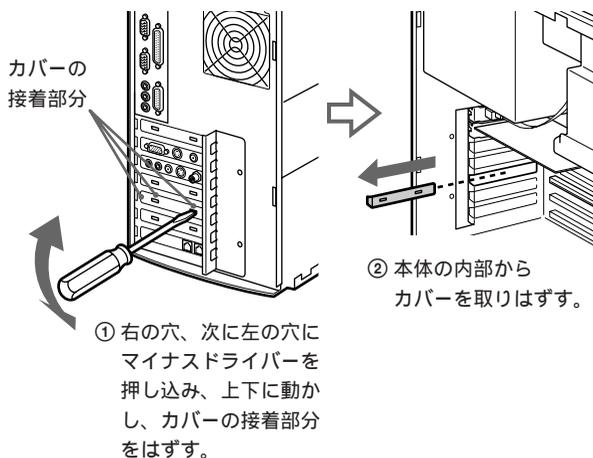
4 ネジをはずし、入出カブラケットを取りはずす。



本機の内部基板は下の図のようになっています。



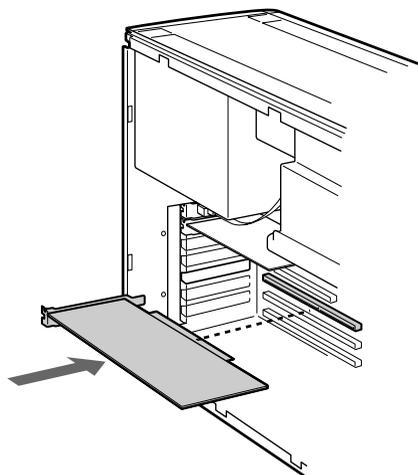
5 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。



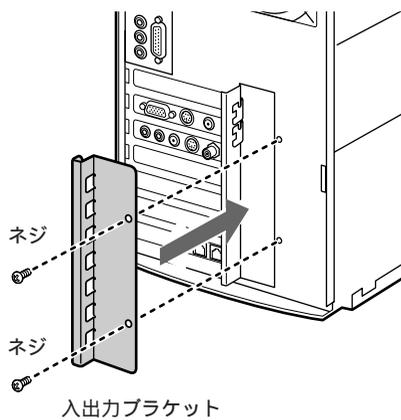
ご注意

- カバーの接着部分をはずすときには、ゆっくりと行い、カバーなどがゆがまないように作業してください。
- 内部の基板を傷つけないようにご注意ください。
- カバーの接着部分は多少突起しています。カバーをはずした後に突起部分に触れ手を切らないようにご注意ください。

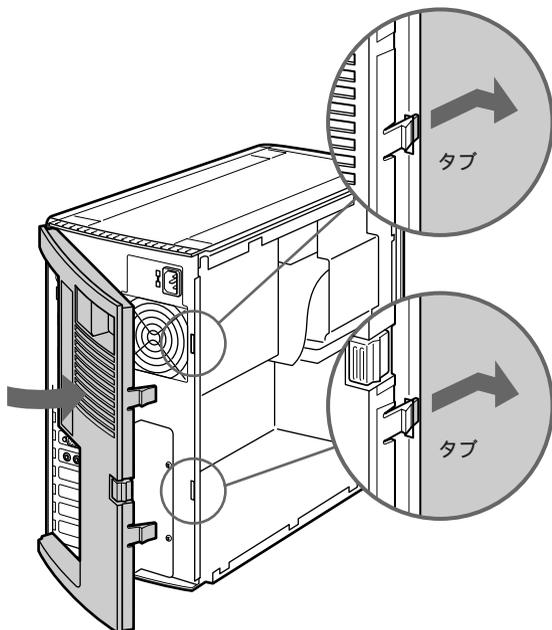
- 6** 拡張ボードを取り付ける。
詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



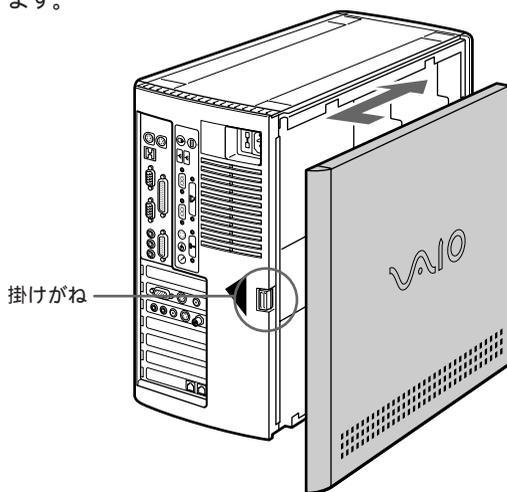
- 7** 入出力ブラケットを取り付けて、ネジをしめる。



- 8** 後面のカバーを取り付ける。
タブがカチッと音がするまで、カバーを押し込みます。



- 9** 左のカバーを取り付ける。
カバーを元の位置に戻し、掛けがねがカチッと音がするまで押し込みます。



本体を拡張する

10 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

プラグアンドプレイ対応の拡張ボードを取り付けた場合は、Windows 95を起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

プラグアンドプレイに対応していない拡張ボードを取り付けた場合は、ボードの取扱説明書を参照して、ドライバーのインストールを行ってください。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずしてから行ってください。

メモリーを増設する

メモリーを増設すると、データの処理速度や複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

メモリーの増設についてのご相談やご質問は、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口までご連絡ください。

BIOSセットアップメニュー を使う

BIOSセットアップメニューの概要

BIOSセットアップとは

お買い上げになった時点で、本機のシステム構成はバッテリーでバックアップされた内部のメモリー（CMOSタイプのRAM）に標準装備として記憶されています。本機を通常お使いの場合、システム構成を変更する必要はありません。

以下の場合には、BIOSセットアップメニューを使ってシステム構成の設定を行います。

- 拡張ボードを増設し、リソースの設定が必要なとき
- キャッシュメモリーを使用禁止にしたり使用可能にするとき
- 省電力機能を設定するとき

ご注意

BIOSセットアップメニューの起動時に、繰り返しエラーが発生する場合は、本機内部のバッテリーが消耗している可能性があります。その場合は、ご自分で設定した値をCMOS RAMメモリーに記憶できません。バッテリーの交換については、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。

BIOSセットアップメニューの特長

ここではBIOSセットアップメニューの特長を説明します。

□ リソースの自動設定

PCI拡張ボードかプラグアンドプレイ対応ISA拡張ボードをスロットに取り付けた後にシステムを起動すると、自動的に各ボードの割り込みレベル、I/O空間や他のリソースが設定されます。BIOSセットアップメニューであらかじめ空きになっている割り込みレベルが拡張ボードに割り当てられます。

□ プラグアンドプレイに対応しているISA拡張ボードへの対応

BIOSセットアップメニューで「プラグアンドプレイOSでの起動」に設定していると、起動時に必要なプラグアンドプレイ対応ISA拡張ボードのみが自動的に設定されます。「非プラグアンドプレイOSでの起動」に設定されていると、すべてのプラグアンドプレイ対応のISA拡張ボードが自動的に設定されます。

□ プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードへの対応

プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードは自動的に設定されません。このため、ISA拡張ボードが使用するリソースはBIOSセットアップメニューや、拡張ボードなどに付属しているISAコンフィグレーションユーティリティを使って設定を行います。

□ 省電力モード(スタンバイモード)

本機ではAPM(Advanced Power Management:パワーマネジメント)機能による省電力モード(スタンバイモード)に対応しています。スタンバイモードでは、CPUの省電力機能を使用したり、ハードディスクの回転を止めることによって、電力消費を減らします。スタンバイモードに入るには以下の方法があります。

- BIOSセットアップメニューで指定したキー操作をしたとき
- BIOSセットアップメニューで指定した時間が経過したとき
- オペレーティングシステムからの指示(Windows 95のサスペンドメニューなど)があったとき

スタンバイモード中であっても、外部からの割り込みやFAX着信などのようなサービス要求には対応します。キーボードやマウスなどの操作でスタンバイモードから復帰し、ディスプレイの電源を復活します。

□ 拡張電源コントロール

本機は拡張電源コントロール(Advanced Power Control)に対応しています。拡張電源コントロールには以下の機能があります。

- 電源断時の再始動

本機の電源が入っているときにAC電源からの供給が止まると、AC電源の供給の復活と同時に自動的に電源が入った状態に戻ります。ただし、本機の電源が切れた状態でAC電源からの供給が止まったときは、AC電源の供給が復活しても電源は入りません。

- SERIAL 1端子への着信による電源オン

SERIAL 1端子に接続したモデムなどの通信機器に一般通話が着信したときに、本機の電源が入ります。

BIOSセットアップメニューを起動する

本機の電源投入後、「Press <F1> key if you want to run SETUP」というメッセージが画面に表示されている間にF1キーを押します。

BIOSセットアップメニューが起動し、Main(メイン)メニュー画面が表示されます。

ご注意

「Press <F1> key if you want to run SETUP」というメッセージが画面に表示されている間にF1キーを押さなかった場合には、Windows 95が起動します。

BIOSセットアップメニューの構成

BIOSセットアップメニューは、以下の4つのメニュー画面から構成されています。

□ Main(メイン)

基本的なシステム構成を設定する画面です。

□ Advanced(アドバンスド)

より詳細にシステム構成を設定する画面です。

□ Security(セキュリティ)

パスワードの設定を行う画面です。

□ Exit(エグジット)

変更した設定を保存したり、BIOSセットアップメニューを終了させる画面です。

それぞれのメニューの設定項目の中には、さらにサブメニューがあるものがあります。

BIOSセットアップメニューでのキー操作

BIOSセットアップメニューでは、以下のキーを使って操作します。

なまえ	機能
/ キー	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面を選ぶときに押します。設定項目の設定値を変更するときに押します。
/ キー	設定項目を選ぶときに押します。選ばれた設定項目は反転表示されます。
Enter(エンター)キー	<ul style="list-style-type: none">選んだ設定項目の設定値の選択肢(ポップアップメニュー)を表示するときに押します。選んだ設定値を決定するときに押します。サブメニューがある設定項目を選んだときに押すと、サブメニューを表示します。F5キーやF6キーの実行内容を確認するダイアログボックスが表示されたときに押すと、実行内容を実行します。
Esc(エスケープ)キー	<ul style="list-style-type: none">サブメニューや設定項目のポップアップメニューから前の画面に戻るときに押します。4つのメニュー画面のいずれかが表示されているとき押すと、変更した設定を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。F5キーやF6キーの実行内容を確認するダイアログボックスが表示されたときに押すと、実行内容を中止します。
F5キー	設定値を初期設定値に戻すときに押します。
F6キー	変更した設定をすべて変更する前の設定に戻します。
F10キー	変更した設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了するときに押します。

ご注意

- BIOSの設定の変更はマウスを使って行うことはできません。
- 不都合が発生した場合以外はF5キーを使わないでください。F5キーを使って設定される値は工場出荷時の設定とは異なります。

Mainメニュー(基本的なシステム構成の設定)

Main(メイン)メニューでは基本的なシステム構成の設定を行います。

設定項目の表記について

- 「*」が付いている設定項目は、他の設定項目の設定内容やハードウェアの構成によっては表示されなかったり、変更できないことがあります。
- 「**」が付いている設定項目は、他の設定項目を変更すると対応する設定値を表示します。
- 「***」が付いている設定項目は変更できません。
- 下線が引いてある設定値が本機の工場出荷時の設定です。

Advancedメニュー、Securityメニュー、Exitメニューも同じ表記をしています。

以下の設定項目が表示されます。

□ System Date(日付)

現在の日付を設定します。日付の表示は「月 日 年」の順になっています。

/ キーを使ってポップアップメニューから月を選び、日、年は数字キーで入力します。月、日、年の間は / キーを使って移動します。

□ System time(時刻)

現在の時刻を設定します。時刻の表示は「時 分 秒」の順になっています。

時、分、秒の間は / キーを使って移動します。数字キーで時刻を入力します。Enterキーを押すと、時計が動き始めます。

□ Floppy Options*(フロッピーディスクドライブの設定)

本機で使うフロッピーディスクの種類やフロッピーディスクドライブについて設定されます。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Floppy Optionsのサブメニュー

- Floppy A*** (フロッピーディスクドライブA)
1台目のフロッピーディスクドライブが接続されているかを表示します。
- Floppy B*** (フロッピーディスクドライブB)
2台目のフロッピーディスクドライブが本機に接続されているかを表示します。

- Floppy A: Type(フロッピーディスクドライブAの形式)
本機のコピーディスクドライブの形式を指定します。
 - Disabled: フロッピーディスクドライブを使わないとき選ぶ。
 - 360KB, 5¹/₄inch
 - 1.2MB, 5¹/₄inch
 - 720KB, 3¹/₂inch
 - 1.44/1.25MB, 3¹/₂inch
 - 2.88MB, 3¹/₂inch
 - 120MB, 3¹/₂inch
- Floppy B: Type(フロッピーディスクドライブBの形式)
2台目のコピーディスクドライブの形式を指定します。2台目のコピーディスクドライブを接続していないときは、「Disabled」を選びます。
 - Disabled: 2台目のコピーディスクドライブを使わないとき選ぶ。
 - 360KB, 5¹/₄inch
 - 1.2MB, 5¹/₄inch
 - 720KB, 3¹/₂inch
 - 1.44/1.25MB, 3¹/₂inch
 - 2.88MB, 3¹/₂inch
- Floppy Access*
コピーディスクのアクセス方法を指定します。
 - Read / Write: コピーディスクの読み込み / 書き込みができる。
 - Read Only: コピーディスクの読み込みのみできる。

□ Primary IDE Master*(プライマリIDEマスター)

マザーボードのプライマリIDEのマスターに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「Not Installed」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。サブメニューについては、次ページをご覧ください。

□ Primary IDE Slave*(プライマリIDEスレーブ)

マザーボードのプライマリIDEのスレーブに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「Not Installed」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

□ Secondary IDE Master* (セカンダリIDEマスター)

マザーボードのセカンダリIDEのマスターに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「Not Installed」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

□ Secondary IDE Slave* (セカンダリIDEスレーブ)

マザーボードのセカンダリIDEのスレーブに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「Not Installed」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Primary IDE Master / Primary IDE Slave / Secondary IDE Master / Secondary IDE Slave共通のサブメニュー
各設定項目について、以下のサブメニューの設定項目があります。

- IDE Device Configuration (ハードディスクの設定)
ハードディスクを手動で設定するか、自動的に設定するかを指定します。
 - Auto Configured: ハードディスクが自動的に設定される。
「Cylinders」、「Heads」、「Sectors」、「Maximum Capacity」の設定を変更することはできない。
 - User Definable: ハードディスクを手動で設定するときに選ぶ。
「Cylinders」、「Heads」、「Sectors」、「Maximum Capacity」の設定の変更ができるようになる。
 - Disabled: BIOSが接続された機器を検知しなくなる。
- Cylinders* (シリンダー数)
「IDE Device Configuration」が「Auto Configured」に設定されているときは、ハードディスクのシリンダー数が表示されます。「User Definable」に設定されているときは、接続されているハードディスクの正確なシリンダー数を入力します。
- Heads* (ヘッド数)
「IDE Device Configuration」が「Auto Configured」に設定されているときは、ハードディスクの読み/書きヘッドの数が表示されます。「User Definable」に設定されているときは、接続されているハードディスクの正確なヘッド数を入力します。

- Sectors* (セクター数)
「IDE Device Configuration」が「Auto Configured」に設定されているときは、ハードディスクの1シリンダー当たりのセクター数が表示されます。「User Definable」に設定されているときは、接続されているハードディスクの正確なセクター数を入力します。
- Maximum Capacity** *** (総容量)
シリンダー数、ヘッド数、セクター数から算出されたハードディスクの記憶容量を表示します。
- IDE Translation Mode (IDE転送モード)
IDEのデータ転送モードを設定します。
 - Standard CHS: 1024シリンダー未満のドライブの標準的なシリンダー/ヘッド/セクター
 - Logical Block: 論理ブロックアドレス (LBA)。この項目は、「IDE Device Configuration」が「User Definable」に設定されているときは選べない。
 - Extended CHS: 1024シリンダー以上のドライブの、拡張シリンダー/ヘッド/セクター
 - Auto Detected: BIOSがデータ転送モードを検知します。「IDE Device Configuration」が「User Definable」に設定されているときには選べない。

ご注意

フォーマットを終えたディスクに対して「IDE Translation Mode」の設定を変更しないでください。データ破壊の原因となります。

- Multiple Sector Setting (マルチセクターの設定)
ドライブが1回の割り込みで転送するセクター数を設定します。
 - Disabled: マルチセクター転送を行わない。
 - 4 Sectors/Block: 4セクターを転送する。
 - 8 Sectors/Block: 8セクターを転送する。
 - Auto Detected: ドライブがサポートする最大数のセクターを転送する。
- Fast Programmed I/O Mode (Fast PIOモード)
IDEのデータ転送スピードを設定します。
 - Disabled: やや遅いスピードで転送される。
 - Auto Detected: ドライブの最大のスピードで転送される。

□ Language*** (言語)

English(US)以外選べません。

□ Boot Options (起動時の設定)

システムを起動したときのキーの状態、メッセージの表示などを設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Boot Optionsのサブメニュー

- First Boot Device (起動順位1番のドライブ)
システムの起動を試みる最初のドライブを設定します。
 - Disabled: 起動ドライブを設定しない。
 - Floppy: フロッピーディスクドライブ
 - Hard Disk: ハードディスク
 - CD-ROM: CD-ROM / CD-Rドライブ
 - Network: ネットワーク

- Second Boot Device (起動順位2番のドライブ)
システムの起動を試みる2番目のドライブを設定します。
 - Disabled: 起動ドライブを設定しない。
 - Floppy: フロッピーディスクドライブ
 - Hard Disk: ハードディスク
 - Network: ネットワーク

- Third Boot Device (起動順位3番のドライブ)
システムの起動を試みる3番目のドライブを設定します。
 - Disabled: 起動ドライブを設定しない。
 - Floppy: フロッピーディスクドライブ
 - Hard Disk: ハードディスク
 - Network: ネットワーク

- Fourth Boot Device (起動順位4番のドライブ)
システムの起動を試みる4番目のドライブを設定します。
 - Disabled: 起動ドライブを設定しない。
 - Floppy: フロッピーディスクドライブ
 - Hard Disk: ハードディスク
 - Network: ネットワーク

- **System Cache(キャッシュメモリー)**
 キャッシュメモリーを動作させるかさせないかを設定します。
 - Enabled: キャッシュメモリーを動作させる。
 - Disabled: キャッシュメモリーを動作させない。
- **Boot Speed(起動スピード)**
 システムが起動するときのスピードを設定します。
 - Deturbo: 旧式のボードが使用できるようにやや遅いスピードを使う。
 - Turbo: 最速で動く。
- **Num Lock(Num Lockキー)**
 システムを起動したときの、キーボードのNum Lockキーの入 / 切を設定します。
 - Off: Num Lockキーを切った状態でシステムを起動する。
 - On: Num Lockキーがすぐ使える状態でシステムを起動する。システムが起動したときに、Num Lockランプが点灯する。
- **Setup Prompt(セットアップメッセージ)**
 電源投入後、「Press <F1> Key if you want to run Setup」のメッセージを出すか出さないかを設定します。この設定は、BIOSセットアップメニューを起動するかどうかの設定ではありません。メッセージを出すか出さないかの設定です。
 - Disabled: メッセージを表示しない。
 - Enabled: メッセージを表示する。
- **Hard Disk Pre-Delay(ハードディスク用の遅延時間)**
 ハードディスク用の遅延時間(秒)を設定します。遅延時間を設定すると、BIOSは最初のハードディスクにアクセスする前に指定された時間待機します。
 - Disabled: 遅延時間を設定しない。
 - 3 seconds
 - 6 seconds
 - 9 seconds
 - 12 seconds
 - 15 seconds
 - 21 seconds
 - 30 seconds

- **Typematic Rate Programming***(キーボードの打鍵)
キーボードの連続打鍵(タイプマチック)の遅延時間(msec)とスピード(char/sec、字数/秒)を設定します。
 - Default: 遅延時間を250msec、スピードを6 char/secに設定する。
 - Override: 遅延時間とスピードを設定する。
- **Typematic Rate Delay***(キーボードの連続打鍵の遅延時間)
キーボードのキーを押したとき、連続打鍵が始まるまでの遅延時間を設定します。「Typematic Rate Programming」が「Default」に設定されているときはこの項目は表示されません。
 - 250 milliseconds
 - 500 milliseconds
 - 750 milliseconds
 - 1000 milliseconds
- **Typematic Rate***(キーボードの連続打鍵のスピード)
キーボードのキーを押し続けて文字入力が繰り返されるスピード(字数/秒)を設定します。「Typematic Rate Programming」が「Default」に設定されているときはこの項目は表示されません。
 - 6 char/sec
 - 8 char/sec
 - 10 char/sec
 - 12 char/sec
 - 15 char/sec
 - 20 char/sec
 - 24 char/sec
 - 30 char/sec
- **Scan User Flash Area**(ユーザーフラッシュ領域のスキャン)
「Disabled」に設定してください。
- **Power-On COM1 Ring***(電源投入)
COM1ポートに接続したモデムなどの通信機器に一般通話の着信があった場合、システムの電源を投入するかどうかを設定します。この項目は、Advancedメニューの「Auto Start on AC Loss」が「Disabled」に設定されているときには表示されません。
 - Disabled: 電源を投入しない。
 - Enabled: 電源を投入する。

□ Video Mode (ビデオモード)***

現在のビデオモードを表示します。

□ Mouse (マウスの接続状況)***

マウスが接続されているかどうかを表示します。接続されているときは「Installed」、接続されていないときは「Not Installed」と表示されます。

□ Base Memory (ベースメモリーの容量)***

本機内部に装着されているベースメモリーの容量を表示します。

□ Extended Memory (拡張メモリーの容量)***

本機内部に装着されている拡張メモリーの容量を表示します。

□ BIOS Version (BIOSのバージョン)***

BIOSのバージョンを表示します。

Advancedメニュー(システム構成の詳細の設定)

Advanced(アドバンスト)メニューではより詳細にシステム構成の設定を行います。以下の設定項目が表示されます。

Processor Type*** (CPUの種類)

CPUの種類を表示します。

Processor Speed*** (CPUの処理速度)

CPUの処理速度(動作周波数)を表示します。

Cache Size*** (外部キャッシュメモリーの容量)

セカンダリ(L2)キャッシュメモリーの容量を表示します。

Peripheral Configuration(各種インターフェースの設定)

本機に装備されている各種インターフェースを設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Peripheral Configurationのサブメニュー

- Primary PCI IDE Interface(プライマリIDEインターフェース)
プライマリIDEインターフェースの自動設定をするか非動作かを設定します。
 - Disabled: 動作させない。
 - Auto Configured: 自動設定する。
- Secondary PCI IDE Interface(セカンダリIDEインターフェース)
セカンダリIDEインターフェースの自動設定をするか非動作かを設定します。
 - Disabled: 動作させない。
 - Auto Configured: 自動設定する。

- Floppy Interface (フロッピーディスクインターフェース)
フロッピーディスクインターフェースの非動作 / 動作 / 自動設定を設定します。
 - Disabled: 動作させない。
 - Enabled: 動作させる。
 - Auto Configured: 自動設定する。

- Serial Port 1 Interface (SERIAL 1端子のインターフェース)
SERIAL 1端子に対する論理COMポート、I/Oアドレスと割り込み番号 (IRQ) を選択します。表示される選択肢は、「PnP OS」で「Windows 95」を選択しているかどうかにより変わります。(125ページ)
選択肢は以下の形式によって表示されます。
 - Disabled: SERIAL 1端子が使用できなくなります。
 - <COMx>, <l/O address>, <IRQx>: 左から順に論理COMポートの番号、I/Oアドレス、割り込み番号です。(「x」は数字が入ります。) 複数の選択肢から使用する組み合わせを選びます。
 - Auto Configured: 最初の空いているCOMポートを自動的に割り当てます。通常は「COM1 3F8h IRQ4」となります。

- Serial Port 2 Interface (SERIAL 2端子のインターフェース)
SERIAL 2端子に対する論理COMポート、I/Oアドレスと割り込みを選択します。表示される選択肢は、「PnP OS」で「Windows 95」を選択しているかどうかにより変わります。
選択肢は以下の形式によって表示されます。
 - Disabled: SERIAL 2端子が使用できなくなります。
 - <COMx>, <l/O address>, <IRQx>: 左から順に論理COMポートの番号、I/Oアドレス、割り込み番号です。(「x」は数字が入ります。) 複数の選択肢から使用する組み合わせを選びます。
 - Auto Configured: 最初の空いているCOMポートを自動的に割り当てます。通常は「COM2 2F8h IRQ3」となります。

- Serial Port 2 IR Interface (SERIAL 2端子のIRインターフェース)
「Disabled」のまま変更しないでください。

- **Parallel Port Interface** (PRINTER端子のインターフェース)
PRINTER端子に対する論理LPTポート、I/Oアドレス、割り込み番号 (IRQ)、DMAを選択します。表示される選択肢は、「Parallel Port Type」で何を選択しているかと、「PnP OS」で「Windows 95」を選択しているかどうかにより変わります。(125ページ)
選択肢は以下の形式によって表示されます。
 - **Disabled**: PRINTER端子が使用できなくなります。
 - <LPTx>、<I/O address>、<IRQx>、<DMAx>: 左から順にLPTポートの番号、I/Oアドレス、割り込み番号、DMAの番号です。(「x」は数字が入ります。)複数の選択肢から使用する組み合わせを選びます。
 - **Auto Configured**: 「LPT1 378h IRQ7」を自動的に割り当てます。
- **Parallel Port Type** (PRINTER端子の動作モード)
PRINTER端子の動作モードを選択します。
 - **Compatible**: AT互換モード
 - **Bi-directional**: 双方向PS/2互換モード
 - **ECP**: 高速双方向モード
 - **EPP**: 高速双方向モード
- **USB Interface** (USB端子のインターフェース)
USB端子の動作 / 非動作を設定します。USBはPCI割り込みを使用するため、「Enabled」に設定した場合、他の拡張ボードと同じ割り込みを共有する場合があります。
 - **Disabled**: USB端子を動作させない。
 - **Enabled**: USB端子を動作させる。
- **Audio Interface** (AUDIO L / R端子のインターフェース)
AUDIO L / R端子の動作 / 非動作を設定します。
 - **Disabled**: AUDIO L / R端子を動作させない。
 - **Enabled**: AUDIO L / R端子を動作させる。
- **Primary PCI IDE Status** ***** (プライマリIDEインターフェースの状態)
プライマリIDEインターフェースの動作 / 非動作を表示します。動作しているときは「Enabled」、動作していないときは「Disabled」と表示されます。

- Secondary PCI IDE Status** *** (セカンダリIDEインターフェースの状態)
セカンダリIDEインターフェースの動作 / 非動作を表示します。動作しているときは「Enabled」、動作していないときは「Disabled」と表示されます。
- Floppy Status** *** (フロッピーディスクインターフェースの状態)
フロッピーディスクインターフェースの動作 / 非動作を表示します。動作しているときは「Enabled」、動作していないときは「Disabled」と表示されます。
- Serial Port 1 Status** *** (SERIAL 1端子のステータス)
SERIAL 1端子のCOMポート、I/Oアドレスと割り込み番号を表示します。
- Serial Port 2 Status** *** (SERIAL 2端子のステータス)
SERIAL 2端子のCOMポート、I/Oアドレスと割り込み番号を表示します。
- Parallel Port Status** *** (PRINTER端子のステータス)
PRINTER端子のLPTポート、I/Oアドレスと割り込み番号を表示します。

□ Advanced Chipset Configuration (内部デバイスの設定)

本機に装備されている内部デバイスを設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Advanced Chipset Configurationのサブメニュー

- Base Memory Size (ベースメモリーの容量)
ベースメモリーの容量を設定します。
 - 512KB
 - 640KB
- ISA LFB Size (ISAリニアフレームバッファの容量)
ISAリニアフレームバッファの容量を設定します。容量を設定すると、「ISA LFB Base Address」が表示されます。
 - Disabled: ISAリニアフレームバッファを使用しない。
 - 1MB
 - 2MB
 - 4MB

- ISA LFB Base Address*** (ISAリニアフレームバッファのベースアドレス)
ISAリニアフレームバッファのベースアドレスを表示します。「ISA LFB Size」が「Disabled」に設定されているときには表示されません。
- Video Palette Snoop (ビデオパレットスヌープ処理)
「Disabled」に設定してください。
- ISA VGA Write Combining* (ISA VGA 同時書き込み)
「Disabled」に設定してください。
- Latency Timer (PCI Clocks) (バス占有時間)
「Auto Configured」のまま、設定を変更しないでください。
- Bank 0*** (バンク0)
1番目のバンクに装着されたメモリの種別を表示します。
- Bank 1*** (バンク1)
2番目のバンクに装着されたメモリの種別を表示します。

□ Power Management Configuration (パワーマネージメントの設定)

パワーマネージメント機能を設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Power Management Configurationのサブメニュー

- Advanced Power Management (パワーマネージメント機能)
APM (Advanced Power Management) 機能の動作 / 非動作を設定します。APM機能とは、マウス操作やキー入力などの操作が行われていないときにハードディスクなどの動作を停止し、パソコンの消費電力を低下させる機能のことです。APM対応のOSが使用されたときのみ消費電力の管理が行われます。
 - Disabled: APM機能を使用しない。「Auto Start On AC Loss」が表示されているときのみ有効。
 - Enabled: APM機能を使用する。

- IDE Drive Power Down* (IDEドライブの回転制御)
省電力モードに入ったときにIDEドライブを停止するかどうかを設定します。
 - Disabled: IDEドライブを停止しない。
 - Enabled: IDEドライブを停止する。
- VESA Video Power Down* (ビデオ信号の制御)
本機では無効です。
- Inactivity Timer (Minutes)* (待ち時間)
キー操作が中断されてから、本機が省電力モードに入るまでの待ち時間 (分) を数字キーで設定します。設定可能な範囲は0 ~ 255分で、工場出荷時の設定は10 (分) です。
- Hot Key (CTRL-ALT-)* (キーの組み合わせ)
省電力モードに入るキーの組み合わせを設定します。任意のアルファベットを1つ入力します。Ctrl (コントロール) キー、Alt (オルト) キーと同時に、設定したアルファベットキーを押すと、システムは省電力モードに入ります。この機能が働くためには、OSのAPMドライバーが動作している必要があります。

ご注意

「Hot Key」とSecurityメニューの「Security Hot Key」が同じキーに設定されている場合は「Hot Key」の設定の方が有効です。

- Auto Start On AC Loss* (電源断時再起動)
電源断が検知されたときに、記憶されている最後の電源状態へ自動的に復帰させるかどうかを設定します。
 - Disabled: 最後の電源状態に復帰しない。
 - Enabled: 最後の電源状態に復帰する。

□ Plug and Play Configuration (プラグアンドプレイの設定)

プラグアンドプレイについて設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Plug and Play Configurationのサブメニュー

- Configuration Mode (設定モード)

プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードの情報をどこで設定するかを選びます。

- Use BIOS Setup: BIOSセットアップメニューでリソースの予約を行う項目が表示されます。
- Use PnP OS: OSを選択する項目が表示されます。

- PnP OS (プラグアンドプレイOS)

この項目はプラグアンドプレイに対応したISA拡張ボードにのみ適用されます。(PCI拡張ボードは常に自動設定されます。)
「Other PnP OS」か「Windows (TM) 95」を選んだ場合は、ブートデバイスに関わるボードだけがBIOSからリソースを割り当てられます。(起動後にOSが残りのボードにリソースを割り当てます。)

- Disabled: 起動時にすべての拡張ボードを動作状態に設定する。
- Other PnP OS: オンボードデバイスに先立ってPCIデバイスが自動設定される。
- Windows (TM) 95: PCIデバイスの前にオンボードデバイスが自動設定される。

- ISA Shared Memory Size (ISA共有メモリーの範囲)

ISA拡張ボードが共有メモリーに使用するアドレスの範囲を指定します。範囲を設定すると、「ISA Shared Memory Base」が表示されます。このアドレスは、他のデバイスのROMのシャドウイングには使用されません。

この項目は、プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードで、非ROMメモリ空間を要求するものを使用する際に設定してください。

- Disabled: アドレスを指定しない。
- 16 KB
- 32 KB
- 48 KB
- 64 KB
- 80 KB
- 96 KB

- ISA Shared Memory Base Address* (ISA共有メモリーのベースアドレス)
ISA拡張ボードの共有メモリーのベースアドレスを指定します。
 - C8000h
 - CC000h
 - D0000h
 - D4000h
 - D8000h
 - DC000h
- IRQ 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 14, 15 (割り込み番号)
割り込み番号の使用情報を設定します。
 - Available: 拡張ボードがその割り込み番号を使用していないときに指定します。
 - Used By ISA Card: プラグアンドプレイ機能が自動的に割り込み番号を設定するときに、その番号を指定先として利用なくなります。ISA拡張ボードで割り込みを使用するものがある場合、その割り込みは「Used By ISA Card」に設定してください。

ご注意

他の設定項目の設定によって、表示される割り込み番号は変わります。

□ Event Logging Configuration (イベント記録の設定)

イベント記録について設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Event Logging Configurationのサブメニュー

- Event Log Capacity*** (イベントログの容量)
ログ (記録) が一杯かどうか表示します。一杯のときは「Full」、空きがあるときは「Not Full」と表示されます。
- Event Count Granularity*** (イベント数表示)
ログがアップデートされる前に発生するイベントの数を表示します。
- Event Time Granularity (minutes)*** (待ち時間表示)
ログがアップデートされるまでの時間 (分) を表示します。

- **Event Log Control (イベントログ設定)**
イベントの記録動作を設定します。
 - **All Events Enabled:** すべてのイベントを記録させる。
 - **ECC Events Disabled:** 誤り訂正符号に関するイベントを記録させない。
 - **All Events Disabled:** すべてのイベントを記録させない。
- **Clear Event Log (イベントログの消去)**
次回の起動時にログを消去するかどうか設定します。
 - **Keep:** ログは消去されない。
 - **On Next Boot:** ログが消去される。
- **Mark Existing Events As Read (イベントの読み込みの設定)**
すべてのイベントを次回の起動時に読み込むよう設定 (マーク) します。
 - **Do Not Mark:** イベントはマークされない。
 - **Mark:** すべてのイベントが読み込まれるようマークされる。
- **CRITICAL EVENTS IN LOG (クリティカルイベントの内容)**
以下の4つの中からイベントを選び、Enterキーを押すと、最後のイベントと発生した回数が記録され、表示されます。
 - **Single Bit ECC Events:** シングルビットの誤り訂正符号に関するイベント
 - **Multiple Bit ECC Events:** マルチプルビットの誤り訂正符号に関するイベント
 - **Parity Error Events:** パリティの誤りに関するイベント
 - **Pre-Boot Events:** 起動前のイベントEnterキーを押すと、それぞれのイベントに関して以下の情報が表示されます。
 - **Date of Last Occurrence:** イベントが最後に起きた日付
 - **Time of Last Occurrence:** イベントが最後に起きた時間
 - **Total Count of Events/Errors:** イベント / エラーの総数
 - **Memory Bank with Errors:** エラーがあるメモリーバンク。「Pre-Boot Events」を選んだときは表示されない。

Securityメニュー(パスワードの設定)

Security(セキュリティ)メニューではパスワードの設定を行います。

ご注意

- Securityメニューで設定するパスワードは電源投入直後やBIOSセットアップメニューに入るときに使われるものであり、Windows 95で設定するパスワードとは異なります。
- 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードを設定すると、Windows 95を起動する前やBIOSセットアップメニューに入る前にパスワードを入力するメッセージが出るようになります。パスワードを忘れてしまうと、Windows 95を起動したり、BIOSセットアップメニューに入ることができなくなります。

以下の設定項目が表示されます。

□ User Password** *** (ユーザーパスワード)

ユーザーパスワードが設定されているかどうかを表示します。「Enter Password」でパスワードを設定したときには「Installed」、設定していないときは「Not Installed」と表示されます。

□ Administrative Password** *** (管理パスワード)

管理パスワード(BIOSセットアップメニューを使うためのパスワード)が設定されているかどうかを表示します。「Enter Administrative Password」でパスワードを設定したときには「Installed」、設定していないときは「Not Installed」と表示されます。

□ Enter Password (ユーザーパスワードの設定)

ユーザーパスワードを設定します。
以下の手順に従ってパスワードを設定します。

- 1 「Enter Password」の項目でEnterキーを押す。
パスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。
- 2 キーボードを使って[Enter New Password]テキストボックスにパスワードを入力し、EnterキーまたはTabキーを押す。
7文字までアルファベットを入力できます。

- 3** 確認のため、[Confirm New Password]テキストボックスにもう1度パスワードを入力し、EnterキーまたはTabキーを押す。
「Password Installed!」というメッセージが表示され、入力したパスワードが確定されます。
何かキーを押して、元の画面に戻ります。

パスワードの入力を中止するには
手順2または3のときにEscキーを押します。

パスワードを変更するには
「Enter Password」を選び、Enterキーを押すと、現在のパスワードと新しいパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。[Enter Current Password]テキストボックスに現在のパスワードを入力した後、上の手順2以降の操作を行ってください。

パスワードを使用するのを止めるときは
パスワードを変更する手順で、[Enter New Password]と[Confirm New Password]のテキストボックスに何も入力せず、EnterキーまたはTabキーを押します。
「Password Disabled!」というメッセージが表示され、パスワードが消去されます。
何かキーを押して、元の画面に戻ります。
ユーザーパスワードは「Clear User Password」で消去することもできます。

□ Enter Administrative Password (管理パスワードの設定)

管理パスワードを設定します。設定方法は「Enter Password」の場合と同じです。入力できるアルファベット数は7文字までです。

□ User Privilege Level (ユーザーによる設定の権限のレベル)

ユーザーがBIOSセットアップメニューで使える権限を設定します。管理パスワードが設定されている場合にのみ表示されます。管理者が管理パスワードを用いてBIOSセットアップメニューを起動した場合にのみ設定できます。

- Limited Access: ユーザーはBIOSセットアップメニューを使って、「System Date」、「System Time」、「User Password」、「Unattended Start」、「Security Hot Key」のみ変更できる。その他の設定項目は表示されない。
- No access: ユーザーはBIOSセットアップメニューを使えない。
- View Only: ユーザーはBIOSセットアップメニューを起動でき内容をみるができるが、変更はできない。
- Full Access: ユーザーはBIOSセットアップメニューを使って、「User Privilege Level」と「Set Administrative Password」以外のすべての設定項目を変更できる。

□ Clear User Password* (ユーザーパスワードの消去)

現在のユーザーパスワードを消去します。「Enter Password」でユーザーパスワードを設定していないときは、この項目は表示されません。「Clear User Password」の項目で、Enterキーを押すと、「Clear User Password?」というメッセージが表示されます。Enterキーを押すと、現在のパスワードが消去されます。パスワードの消去を止めるときは、Escキーを押します。

□ Unattended Start* (ユーザーパスワードの保護状態)

ユーザーパスワードがどの時点で要求されるかを設定します。ユーザーパスワードが設定されていないときは、この項目は表示されません。

- Enabled: システムは起動するが、ユーザーパスワードが入力されるまでキーボードがロックされる。
- Disabled: ユーザーパスワードが入力されるまでシステムは起動しない。

□ Security Hot Key (CTRL-ALT-) *(セキュリティのキーの組み合わせ)

ユーザーパスワードが入力されるまでキーボードとマウスを使えなくするためのキーの組み合わせを設定します。任意のアルファベットを1つ入力します。Ctrl(コントロール)キー、Alt(オルト)キーと同時に、設定したアルファベットキーを押すと、キーボードでの入力とマウスの使用はできなくなります。(キーボード右上部のNum Lock(ナム・ロック)ランプ、Caps Lock(キャップス・ロック)ランプおよびScroll Lock(スクロール・ロック)ランプが同時に点滅してキーボードが使用できないことを示します。)

キーボードとマウスを使えるようにするには、ロックされている状態でキーボードからユーザーパスワードを入力します。この場合、Enterキーを押す必要はありません。

ご注意

Advancedメニューの「Hot Key」と「Security Hot Key」が同じキーに設定されている場合は「Hot Key」の設定の方が有効です。

Exitメニュー(BIOSセットアップメニューの終了)

Exit(エグジット)メニューでは変更した設定を保存したり、BIOSセットアップメニューを終了させます。

以下の設定項目が表示されます。

□ Exit Saving Changes(変更の保存とメニューの終了)

変更した設定をCMOSに保存してBIOSセットアップメニューを終了します。

Enterキーを押すと、「Exit Saving Changes?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、変更した設定が保存され、メニューが終了します。変更の保存とメニューの終了を止めるときは、Escキーを押します。BIOSセットアップメニュー中の任意の時点でF10キーを押しても同様に動作します。

□ Exit Discarding Changes(変更の破棄とメニューの終了)

変更した設定を保存しないでBIOSセットアップメニューを終了します。

Enterキーを押すと、「Exit Discarding Changes?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、変更した設定が保存されずにメニューが終了します。変更の破棄とメニューの終了を止めるときは、Escキーを押します。

4つのメニュー画面のいずれかが表示されているときにEscキーを押しても同様に動作します。

□ Load Setup Defaults (初期設定への復帰)

BIOSセットアップメニューの中のすべての設定項目を初期設定に戻します。初期設定値はROM内に格納されています。

Enterキーを押すと、「Load Setup Defaults?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、すべての設定項目が初期設定に戻ります。初期設定に戻すのを止めるときは、Escキーを押します。

BIOSセットアップメニュー中の任意の時点でF5キーを押しても同様に動作します。

ご注意

不都合が発生した場合以外はこの機能は使わないでください。この機能によって設定される値は工場出荷時の設定とは異なります。

□ Discard Changes (変更の破棄)

BIOSセットアップメニューの中でその時点までに行った変更を破棄し、前回保存時の設定に戻します。(BIOSセットアップメニューは終了しません)。システム起動時のCMOSの値を再度読み込むことによって行います。Enterキーを押すと、「Discard Changes?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、すべての変更した設定項目が前回保存時の設定に戻ります。変更の破棄を止めるときは、Escキーを押します。

BIOSセットアップメニュー中の任意の時点でF6キーを押しても同様に動作します。

Windowsの設定を変更する

操作環境を自分の好みに合わせる

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピューターを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために現れる画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 95のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 95に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、[スタート]メニューから[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックします。

設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目のウィンドウを開き、設定を変えます。

音質の設定を変更
できます。
(143ページ)

キーボードの設定
を変更できます。

Windows 95の
起動時や終了時
の音、警告音な
どを変更できま
す。



ポインターの動き
かたやポインター
の形などを変更で
きます。

解像度を変更したり、画面の
背景、スクリーンセーバーを
変更できます。(135ページ)

本機に登録してある日付や
時間を変更できます。

ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、ウィンドウの枠の色、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

- 1 [スタート]メニューから[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [背景] [スクリーンセーバー] [デザイン] [調整] [パン] [色] [ディスプレイの詳細]の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。
設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。
- 4 設定が終了したら、[OK]または[更新]をクリックする。
手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

□ 背景 (136ページ)

画面の背景について設定する画面です。

□ スクリーンセーバー (137ページ)

スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

□ デザイン (138ページ)

ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

□ 調整 (139ページ)

映像出力信号の調整を行う画面です。

□ パン (140ページ)

パン操作のためのキーを設定する画面です。

□ 色 (140ページ)

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。

□ ディスプレイの詳細 (141ページ)

解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



□ 模様

表示したい模様をクリックして選ぶ。

[模様の編集] クリックすると、選んだ模様を編集するウィンドウを開く。

□ 壁紙

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。

[参照] クリックすると、壁紙にできる画像ファイルを検索するウィンドウを開く。

表示位置: ラジオボタンをクリックして、壁紙の表示位置を選ぶ。

全体: 壁紙が画面全体に表示される。

中央: 壁紙が画面の中央に表示される。

スクリーンセーバー



□ スクリーンセーバー

ドロップダウンリスト: 使用するスクリーンセーバーをリストから選ぶ。

[設定] クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定するウィンドウが開く。

[プレビュー] クリックすると、設定したスクリーンセーバーを画面全体に表示する。

パスワードによる保護: チェックボックスをクリックすると、スクリーンセーバーをパスワードで保護する。

[パスワードの変更] クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードを設定する。

実行までの待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを選ぶ。

□ ディスプレイの省電力機能

低電力スタンバイ: チェックボックスをクリックしてから時間を選ぶと、設定した時間、マウスやキーボードを使わない場合に、ディスプレイが低電力で動作し、電力の浪費を防ぐ。

電源断: チェックボックスをクリックしてから時間を選ぶと、設定した時間、マウスやキーボードを使わない場合に、ディスプレイの電源が自動的に切れる。

デザイン



□ 配色

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色をリストから選ぶ。

[登録] クリックすると、作成した配色を名前をつけて登録するウィンドウを開く。

[削除] 名前をつけて登録した配色を削除する。

□ 指定する部分

ドロップダウンリスト: 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを選ぶ。

色: 指定する部分の色を選ぶ。

□ フォント

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類をリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

調整

映像出力信号の調整を行う画面です。



- ここをクリックすると、テスト・パターンを行います
クリックすると、6つの画面のパターンを表示する。
- 出力デバイス
調整を行うディスプレイをドロップダウンリストから選ぶ。
- 調整
位置: 矢印をクリックして、画面表示の位置を移動する。
サイズ: 矢印をクリックして、画面表示サイズを拡大または縮小する。
- モニタのモード
解像度: 現在選ばれている画面の解像度を表示する。
色数: 現在選ばれている画面の色数(各色ビット数)を表示する。
水平周波数: 現在の水平周波数を表示する。
垂直周波数: 現在の垂直周波数を表示する。
- 同期
水平: 水平同期の極性を変更する。
垂直: 垂直同期の極性を変更する。
合成: クリックすると、コンポジット同期信号を出力する。
- [初期設定]
クリックすると、「調節」のすべての設定値を推奨値または初期状態に戻すためのウィンドウを開く。
- [リフレッシュ・レート変更]
クリックすると、それぞれの解像度で使用する周波数を設定するウィンドウを開く。

パン

「パン」とは、仮想デスクトップ使用中に表示される画面を上下左右に動かすことです。パンするには、上下左右、それぞれに画面を動かすためのキーの組み合わせを「ホットキーコントロール」であらかじめ設定しておき、実際の画面上で設定したキーを同時に押します。



□ ホットキーコントロール

名前: キーの組み合わせ(ホットキー)を割り当てる動作をクリックして選ぶ。

値: 「名前」で選んだ動作に対応するキーの組み合わせを設定する。

説明: 「名前」で選んでいる動作の説明を表示する。

□ [初期設定]

キーの組み合わせを初期設定の組み合わせに戻す。

色

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。グラフィックの編集をするときなどに画面に表示される色を調整できます。



□ 基本設定

ドロップダウンリスト: 「色」の設定値の組み合わせをリストから選ぶ。

[名前を付けて保存] 現在の設定値の組み合わせを保存する。

[削除] 指定した設定値の組み合わせを削除する。

□ 色定規

色を構成する3要素である赤、緑、青の発色を調整する。赤、緑、青それぞれのラジオボタンをクリックし、定規をドラッグして調整します。

□ ターゲットガンマ

スライダーを動かして、ディスプレイのカラー照度とコントラストを調整する。値が高いほどカラー照度とコントラストは高くなります。

□ 基本設定ホットキー

現在の設定値の組み合わせを呼び出すキーの組み合わせ(ホットキー)指定する。

□ [初期設定]

「色」のすべての設定値を初期状態に戻す。

□ [ビットマップのロード]

画面上部に表示されるビットマップの画像を変更する。

ディスプレイの詳細



□ テレビ

テレビを本機につないだとき「テレビ」のチェックボックスをクリックすれば、テレビ出力が有効になる。(「テレビ」のチェックボックスはディスプレイの解像度が640×480または800×600のときのみ選べます。ディスプレイの解像度は「ディスプレイ領域」で選択します。)

□ 基本設定

ドロップダウンリスト: 「ディスプレイの詳細」の設定値の組み合わせをリストから選ぶ。

[名前を付けて保存] 現在の設定値の組み合わせを保存する。

[削除] 指定した設定値の組み合わせを削除する。

□ カラーパレット

ドロップダウンリスト: 画面の表示色数をリストから選ぶ。

ご注意

本機ではHigh Color(16ビット)での動作を確認しています。

□ フォントサイズ

ドロップダウンリスト: 画面に表示される文字の大きさの大小をリストから選ぶ。(解像度が640×480ドットより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「ディスプレイ領域」をご覧ください。)

[カスタム] 画面に表示される文字の大きさを好みの値に変える。

□ ディスプレイ領域

画面: スライダーをずらして画面の解像度を設定する。

デスクトップ: スライダーをずらして仮想デスクトップの大きさを設定する。

ご注意

本機では画面解像度が1024×768での動作を確認しています。

□ 基本設定ホットキー

現在の設定値の組み合わせを呼び出すキーの組み合わせ(ホットキー)を指定する。

□ ダイアログボックスを中央に

チェックボックスをクリックすると、画面に表示されるメッセージ(ダイアログボックス)が画面の中央で開くように設定する。仮想デスクトップサイズを設定しているときに便利です。

□ タスクバーアイコンを有効に

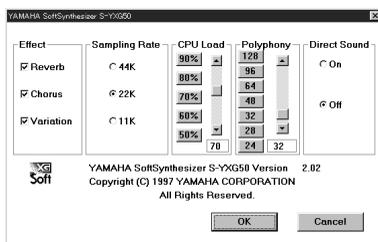
チェックボックスをクリックすると、グラフィックドライバーのヘルプ画面を開くアイコンをWindows 95のタスクバーに表示する。

- タスクバーに設定インジケータを表示する
 チェックボックスをクリックすると、設定インジケータをWindows 95のタスクバーに表示する。
- [詳細プロパティ]
 グラフィックアダプターとディスプレイの種類の変更を行うウィンドウを開く。

音質の設定を変更する

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

- 1 [スタート]メニューから[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 [XG Synth Driver]をダブルクリックする。
 「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 各種の設定を行う。



□ Effect

各種エフェクト効果の入 / 切ができます。

Reverb: チェックボックスをチェックすると、残響効果を加える。

Chorus: チェックボックスをチェックすると、奥行きや厚みといった音響効果を加える。

Variation: チェックボックスをチェックすると、さまざまな音響効果を加える。

□ Sampling Rate

ラジオボタンをクリックして、再生する音声のサンプリング周波数（音声波形のきめ細かさ）を選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

□ CPU Load

CPUの占有率をクリックして選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

□ Polyphony

同時発音数をクリックして選ぶ。

□ Direct Sound

ラジオボタンをクリックして、マイクロソフト社のダイレクトサウンドの使用を入/切する。ダイレクトサウンドに対応したゲームを使用する場合は「ON」を選ぶ。

- 4** 設定が終了したら、[OK]をクリックする。
手順3で変更した設定が反映されます。

その他

第 3 章

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないこととなります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 95のヘルプをお読みください。

CD-ROM / CD-Rディスクの取り扱いについて

CD-ROM / CD-Rディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。

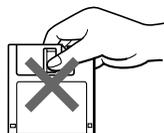


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

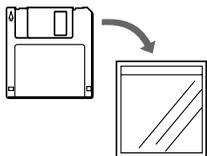
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



その他

次のページにつづく

- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



トレイアダプターとキャディの取り扱いについて

- トレイアダプターやキャディを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- トレイアダプターやキャディはCD-ROM / CD-Rドライブに挿入されると自動的にシャッターが開くようになっています。シャッターを手で開けないでください。
- トレイアダプターやキャディは工場出荷時に精密に調整してありますので、分解しないでください。
- 本機を移動するときは、CD-ROM / CD-Rドライブ内にトレイアダプターやキャディを入れたままにしないでください。必ず取り出してください。
- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

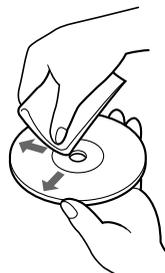
本機やディスプレイについてゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切ってからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものや化学ぞうきんは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。

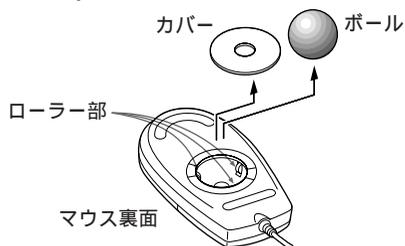
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-Rディスクのお手入れ

- CD-Rディスクは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブローを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインターが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

保証書と アフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはITテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

ITテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピューターの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。
弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、弊社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：PCV-T700MR
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

主な仕様

プロセッサ

Pentium® II 266 MHzプロセッサ

2次キャッシュ

512Kバイト

メインメモリー

標準32Mバイト

最大128Mバイトまで拡張可能

拡張メモリスロット

72ピン SIMM × 4 (空き 2)

グラフィックアクセラレーター

ATI 3D RAGE™ II+

ビデオメモリー

4Mバイト

表示モード

1,280 × 1,024ドット (1677万色)

1,024 × 768ドット (1677万色)

800 × 600ドット (1677万色)

640 × 480ドット (1677万色)

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44Mバイト / 1.2Mバイト / 720K
バイト

ハードディスクドライブ

4.3Gバイト

CD-ROM / CD-Rドライブ

読み出し8倍速、書き込み2倍速、CD-R FS対応
(ATAPI)

MPEG1 リアルタイムエンコーダー ボード ビデオキャプチャー機能

TVチューナー付き (1~62チャンネル、ステレ
オ、2か国語) S-ビデオ、コンポジット入力端子
圧縮モードを選択可能

“High” 2.38Mbps / 320 × 240 / 30fps

“Normal” (ビデオCD相当) 1.41Mbps /
352 × 240 / 30fps

“Long” 478Kbps / 160 × 112 / 30fps

“Network” 124.4Kbps / 112 × 80 / 10fps

静止画 704 × 480

MPEG1オーディオ (Layer 2) 対応

外部接続端子 (前面)

VIDEO 2 INPUT

S VIDEO

ミニDIN4ピン (1)

輝度信号: 1Vp-p (75Ω不平衡)

色信号: 0.286Vp-p (75Ω不平衡)

VIDEO

ピンジャック (1), 1Vp-p (75Ω不平衡)

AUDIO L/R

ピンジャック (左・右) (2)

-7.5 dBs (47kΩ以上)

外部接続端子 (後面)

KEYBOARD

PS/2、ミニDIN6ピン (1)

MOUSE

PS/2、ミニDIN6ピン (1)

SERIAL 1 / 2

RS-232C、D-SUB9ピン (2)

PRINTER

セントロニクス社インターフェース準拠、
D-SUB25ピン (1)

USB

4ピン (2)

LINE IN

ステレオミニジャック (1)

HEADPHONES

ステレオミニジャック (1)

そ
の
他

次のページにつづく

MICROPHONE

モノラルミニジャック(1)

GAME

D-SUB15ピン(1)

MONITOR

VGAタイプ、D-SUB25ピン

VIDEO 1 INPUT

S VIDEO

ミニDIN4ピン(1)

輝度信号:1Vp-p(75Ω不平衡)

色信号:0.286Vp-p(75Ω不平衡)

VIDEO

ピンジャック(1) 1Vp-p(75Ω不平衡)

AUDIO L/R

ピンジャック(左・右)(2)

-7.5 dBs(47kΩ以上)

VIDEO OUT

ピンジャック(1) 1Vp-p(75Ω不平衡)

S VIDEO OUT

ミニDIN4ピン(1)

輝度信号:1Vp-p(75Ω不平衡)

色信号:0.286Vp-p(75Ω不平衡)

VHF/UHF

VHF/UHF1軸、75 F型コネクター(1)

LINE

モジュラージャック(1)

TELEPHONE

モジュラージャック(1)

拡張スロット

PCI×3(空き1)、PCI/ISA(空き1)、ISA×2(空き1)

オーディオ機能

Yamaha OPL3-SA(Sound Blaster Pro互換)

内蔵ファックスモデム

33,600bps(V.34) / 14,400bps(ファックス時) ボイス機能対応、ハンズフリー電話機能対応

キーボード

OADG準拠、109キーボード

電源・その他

電源

AC 100V±10%(50/60 Hz)

消費電力

約220W

動作温度

5 ~ 40 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

30% ~ 80%(結露のないこと)

保存温度

-20 ~ 60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

20% ~ 90%(結露のないこと)

外形寸法

本体: 約225 × 367.9 × 451.5 mm(幅/高さ/奥行き)

キーボード: 約480 × 37 × 190 mm(幅/高さ/奥行き、最大突起部を含まず)

質量

本体: 約13.2 kg

キーボード: 約1.65 kg

付属品

「付属品を確認してください」をご覧ください。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

高調波電流規制について

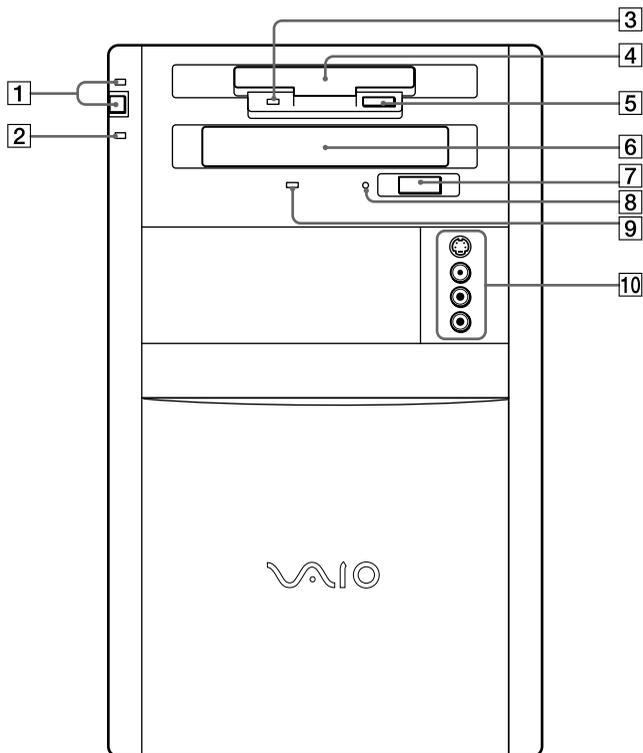
この装置の本体およびディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

各部の名称と働き

詳しい説明は、()内のページをご覧ください。

前面

イラストは前面上部パネルを下までおろした状態です。



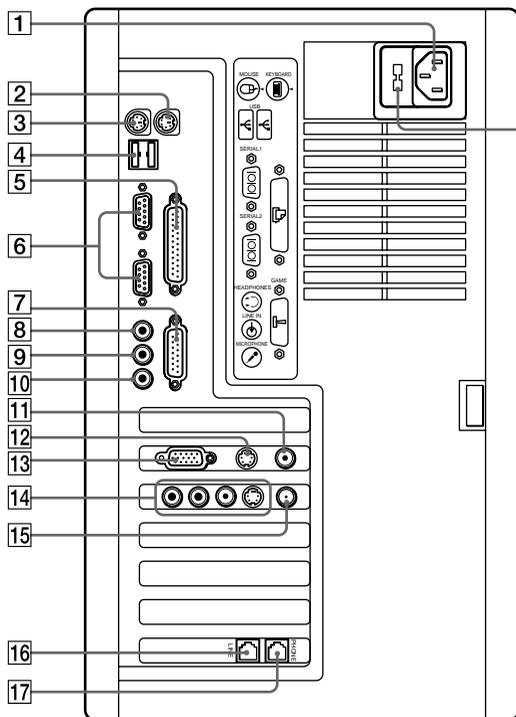
- 1 電源ボタンと $\text{\textcircled{P}}$ ランプ(電源ランプ)(20ページ)
本機の電源を入れるときに押します。
電源が入っている間は、 $\text{\textcircled{P}}$ ランプが点灯します。

- 2 $\text{\textcircled{H}}$ ランプ(ハードディスクアクセスランプ)
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

その他

- ③ フロッピーディスクドライブアクセスランプ(55ページ)
フロッピーディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするとき点灯します。
- ④ フロッピーディスクドライブ(54ページ)
3.5インチのフロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりします。
- ⑤ フロッピーディスクイジェクトボタン(55ページ)
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
- ⑥ CD-ROM / CD-Rドライブ(38、47ページ)
CD-ROMのデータを読み込んだり、CD-Rにデータを書き込んだりします。
- ⑦ CD-ROMイジェクトボタン(40、44ページ)
CD-ROMを取り出すときに押します。
- ⑧ マニュアルイジェクト穴(41、45ページ)
CD-ROMイジェクトボタンを押してもCD-ROMを取り出せないときに使います。
- ⑨ CD-ROM / CD-Rドライブアクセスランプ(40、44ページ)
CD-ROM、CD-Rにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするとき点灯します。
- ⑩ VIDEO 2 INPUT(映像入力2)端子(86、88ページ)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどにつながります。
- S VIDEO(S映像入力)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力端子につながります。よりきれいな映像を本機で見たり編集することができます。
- VIDEO(映像入力)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力端子につながります。映像を本機で見たり編集するときに使います。
- AUDIO L / R(音声入力)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力端子につながります。

後面



安全のため、
このスイッチはさわら
ないでください。

- 1 AC INPUT (AC電源入力) 端子
付属の電源コードをつなぎ、AC電源
につなぎます。
- 2 KEYBOARD (キーボード) 端子
付属のキーボードをつなぎます。
- 3 MOUSE (マウス) 端子
付属のマウスをつなぎます。
- 4 USB (Universal Serial Bus) 端
子
USB規格に対応した機器をつなぎま
す。(本機では現在サポートするUSB
機器はありません。)

- 5 PRINTER (プリンター) 端子
(92ページ)
別売りのプリンターやスキャナーなど
をつなぎます。
- 6 SERIAL 1/2 (シリアル 1/2) 端
子 (80ページ)
赤外線通信アダプターなどをつなぎま
す。
- 7 GAME (ゲーム) 端子 (93ページ)
ジョイスティックやMIDI機器をつな
ぎます。

そ
の
他

次のページにつづく

- ⑧ HEADPHONES(ヘッドホン)端子
別売りのスピーカーや本機専用のソニーマルチメディアコンピューターディスプレイCPD-220VSのHEADPHONES端子とつなぎます。
- ⑨ LINE IN(ライン入力)端子
オーディオ機器とつなぎます。
- ⑩ MICROPHONE(マイクロホン)端子
別売りのマイクや本機専用のソニーマルチメディアコンピューターディスプレイCPD-220VSのMICROPHONE端子とつなぎます。
- ⑪ VIDEO OUT(映像出力)端子
(91ページ)
テレビなどの映像入力端子とつなぎます。
- ⑫ S VIDEO OUT(S映像出力)端子
(91ページ)
テレビなどのS映像入力端子とつなぎます。
- ⑬ MONITOR(モニター)端子
ディスプレイをつなぎます。
- ⑭ VIDEO 1 INPUT(映像入力1)端子
(85、87ページ)
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。
S VIDEO(S映像入力)ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力端子とつなぎます。よりきれいな映像を本機で見たり編集することができます。
- VIDEO(映像入力)ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力端子とつなぎます。映像を本機で見たり編集するときに使います。
- AUDIO L/R(音声入力)ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力端子とつなぎます。
- ⑮ VHF/UHF(アンテナ)端子
(83ページ)
アンテナをつなぎます。
- ⑯ LINE(電話回線)ジャック(78ページ)
壁の電話回線とつなぎます。
- ⑰ TELEPHONE(電話機)ジャック
(77ページ)
電話機をつなぎます。

故障かな？と思ったら

ITテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはお買い上げ店またはITテクニカルレスポンスセンターにご相談ください。

ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を入れる」(20ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。

症状	原因 / 対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">● 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。● すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。
画面に何も表示されない。	<ul style="list-style-type: none">● 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。● 本機とディスプレイを正しく接続する。● 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。● ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
画像が乱れる。	ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。
画質が悪い。	ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
画像の両端が欠ける。	ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

その他

次のページにつづく

症状	原因 / 対策
CD-ROMの再生時、音がとぎれる。	<ul style="list-style-type: none"> • CD-ROMをCD-ROMドライブに入れてください。 • CD-ROMが正しくトレイに置かれているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして置きます。 • CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 • 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。 • CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。
CD-Rが取り出せない	CD-RはCD-ROMイジェクトボタンでは取り出せません。取り出しかたについては51ページをご覧ください。
CD-ROMが取り出せない	40ページまたは44ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> • 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。 • マウスの内部が汚れている。マウスを掃除する。(149ページ) • 訂キーを押して[スタート]メニューを表示させ、キーまたはキーを押して[Windowsの終了]を選び、Enterキーを押す。 • 上記の操作で電源を切れない場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押す、本機を再起動する。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押す、再生中のCD-ROMを強制的に終わらせ、本機を再起動する。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	<p>フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。</p> <p>その後、キーボードで何らかのキーを押す。</p>

症状	原因 / 対策
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	<ul style="list-style-type: none"> • フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(56ページ) • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(56ページ)
スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> • 本機専用のディスプレイをお使いの方は、ディスプレイのケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 • ディスプレイのミュートボタンが「ON」になっていないか確認する。 • ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。音量ボタンで音量を上げる。 • アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーのオーディオケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 • アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」(29ページ)をご覧ください。

症状	原因 / 対策
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいソフトウェアのウィンドウが前面に出していない。(画面上では薄い色のウィンドウになります。)ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「^」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「^」を押す。 MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(30ページ)をご覧ください。
全角の「~」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「全角ひらがな」を選び、ひらがなで「から」と入力し、「~」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(30ページ)をご覧ください。
マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。	マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。
ハードディスクから起動できない	<ul style="list-style-type: none"> • フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。 • CD-ROM / CD-RドライブにリカバリーCDが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリーCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリーCDで本機を再セットアップする」(162ページ)をご覧ください。
ハードディスクの内容を誤って消してしまった。	リカバリーCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリーCDで本機を再セットアップする」(162ページ)をご覧ください。
「CMOS BATTERY FAILED」というメッセージが表示される。	本機内のバッテリーが消耗しているため、バッテリーを交換する必要があります。バッテリーの交換については、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。

症状	原因 / 対策
画面上のすべてのものが動かなくなりました。	CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押す。
赤外線で通信できない	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="515 212 991 300">● 赤外線アダプターのケーブルが本機の SERIAL1または2端子にしっかり差し込まれているか確認する。 <li data-bbox="515 320 991 472">● 本機の赤外線通信ドライバーが正しく設定されているか確認してください。コントロールパネルの「赤外線モニター」ダイアログボックスで赤外線アダプターをつないだSERIAL端子に合った設定を行ってください。(80ページ) <li data-bbox="515 493 991 703">● 本機と通信する機器の赤外線ポートが赤外線アダプターと真正面に向き合っているか確認してください。間に障害物があるときは取り除いてください。コントロールパネルの「赤外線モニター」ダイアログボックスの「状況」タグを見て通信する機器が認識されているか確認してください。

リカバリーCDで本機を再セットアップする

ここでは付属のProduct Recovery CD-ROM(以降、リカバリーCDと略します)を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリーCDとは

リカバリーCDには、工場出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、システムファイルを消してしまった場合には、リカバリーCDを使ってハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリーCDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- このリカバリーCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- このリカバリーCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう一度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。

以下の手順に従って再セットアップします。

- 1** 付属のリカバリーCDをCD-ROM / CD-Rドライブに入れる。
入れかたについて詳しくは、「CD-ROM / CD-Rを使う」(37ページ)をご覧ください。
- 2** Windows 95が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。
Windows 95の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切るには」(21ページ)をご覧ください。
- 3** 30秒ほど待ってから、電源スイッチを押して本機の電源を入れる。
しばらくするとCD-ROM / CD-Rドライブから起動し、リカバリーCD上のプログラムが動作します。
- 4** 画面の指示に従って操作する。

ご注意

BIOSセットアップメニューのMainメニューの「Boot Options」で、「First Boot Device」を「CD-ROM」以外に設定しているときは、システムの起動を試みる最初のドライブがCD-ROMではないため、手順3を行っても、リカバリーCDが起動しません。この場合は、BIOSセットアップメニューで「First Boot Device」を「CD-ROM」に設定してください。詳しくは、「Mainメニュー(基本的なシステム構成の設定)」の中の「Boot Options(起動時の設定)」(115ページ)をご覧ください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。→  +F

組み合わせ	機能
 +F1	Windowsのヘルプを表示します。
 +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
 +E	エクスプローラー ¹⁾ を表示します。
 +F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 +M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+  +M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
 +R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから「ファイル名を指定して実行...」を選んだときと同じです。
 +Pause	「システムのプロパティ」ウィンドウを表示します。 「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックしたときと同じです。

¹⁾ コンピューターの内容(ファイルやフォルダ)をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

索引

五十音順

ア

- アンテナ 83
- インターネット
 - インターネットサービスプロバイダー 59
 - インターネットとは 58
 - インターネットを始める 61
- 液晶プロジェクター 91
- 音楽CD 74

カ

- 外部スピーカー 67、68
- 外部マイク 67、68
- 拡張電源コントロール 108
- 拡張ボード
 - 拡張スロット 96、101
 - 種類 96
 - 増設する 96
 - 取り付ける 99
 - 取りはずす 104
 - プラグアンドプレイ 96、125
 - リソース 97
 - ISA拡張ボード 96、125
 - PCI拡張ボード 96
- キーボード
 - キーボードショートカット 164
 - キーボードを掃除する 149
 - キーボードを使う 26
 - 用語解説 15
- キャディ
 - キャディを使う 42
 - 取り扱いについて 148
- クリック
 - クリック 24
 - ダブルクリック 24
 - 右クリック 25
- 結露 146
- コントロールパネル 80、134
- コンピューターウイルス 16

サ

- サイバーショット
 - サイバーショットから画像を取り込む 89
 - サイバーショットを使う 89
- 省電力機能
 - スタンバイモード 107、123
 - ディスプレイ 137
- ジョイスティック 93
- 初期化 56
- スタンバイモード 107、123
- スピーカー
 - アクティブスピーカー 67、68
 - 内蔵スピーカー 67、68
- 赤外線
 - 赤外線通信アダプター 71、80、89
 - 赤外線データ通信 71、89
 - 赤外線データ通信の設定を変更する 80
 - 赤外線ポート 71、89
- 接続
 - アンテナ 83
 - 液晶プロジェクター 91
 - ジョイスティック 93
 - 赤外線通信アダプター 80
 - デジタルスチルカメラ 89
 - テレビ 90
 - 電話回線 77
 - ビデオカメラレコーダー 87
 - ビデオデッキ 85
 - プリンター 92
 - MIDI機器 93
- 操作環境の変更
 - 音質の設定変更 143
 - コントロールパネル 134
 - ディスプレイの設定変更 135

ソフトウェア

- 不正コピー禁止について 17
- 用語解説 15
- ワードパッド 29
- Adobe PhotoDeluxe 12
- Communication Center 64
- Community Place Browser 76
- Internet Explorer 60、61
- Media Bar 74
- Navin' You Lite 76
- Netscape Navigator 60、61
- PictureGear Lite 12、71、76、89
- Slipclip 12、73、84、86、88
- TranXit 71
- TV 75
- YAMAHA
 - SoftSynthesizer S-YXG50 143

タ

- ダブルクリック 24
- ディスプレイ
 - お手入れ 148
 - 省電力機能 138
 - ディスプレイの設定変更 135
 - 用語解説 15
- ディスプレイの設定
 - 色 140
 - スクリーンセーバー 137
 - 調整 139
 - ディスプレイの詳細 141
 - デザイン 138
 - 背景 136
 - パン 140
- デジタルスチルカメラ
 - デジタルスチルカメラから画像を取り込む 89
 - デジタルスチルカメラを使う 89
- データ
 - 書き込み禁止にする 56
 - バックアップをとる 2、146
 - やりとりする 71
- テレビ
 - チューナーの設定 75
 - テレビをつなぐ 90
 - テレビを見る 75
- 電源
 - 電源を入れる 20
 - 電源を切る 21

電話

- 電話を受ける 68
- 電話をかける 66
- 電話を準備する 64
- 留守番電話として使う 68
- 電話回線
 - コンセントの種類 79
 - 電話回線につなぐ 77
- ドライバー 92
- ドラッグする 25
- トリアダプター
 - 取り扱いについて 148
 - トリアダプターを使う 38

ナ

- 日本語入力 29

ハ

- ハードディスク
 - 取り扱いについて 146
 - 用語解説 15
- パスワード
 - 管理パスワード 128
 - 消去する 130
 - 設定する 128
 - 変更する 129
 - ユーザーパスワード 128
- パソコン通信
 - パソコン通信とは 62
 - パソコン通信を楽しむ 62
- バックアップをとる 2、146
- パワーマネージメント機能 123
- ヒストリー機能 49
- ビデオカメラレコーダー 87
- ビデオデッキ 85
- ビデオ編集 73
- ビデオCD 74
- ファックス
 - ファックスを受信する 70
 - ファックスを準備する 64
 - ファックスを送信する 69
- フォーマット
 - CD-R 37、47
 - CD-R FS 47
- プラグアンドプレイ
 - プラグアンドプレイとは 96
 - BIOSセットアップの変更 125

フリーズ 52
プリンター 92
フロッピーディスク
 入れる 54
 使用できるフロッピーディスク 37
 初期化する 56
 データを書き込み禁止にする 56
 取り扱いについて 147
 取り出す 55
 BIOSセットアップの変更 111
フロッピーディスクドライブ 54
プロバイダー 60
ポインター 23
ポイントする 24

マ

マウス
 マウスを掃除する 149
 マウスを使う 23
 用語解説 15
マイク 67、68
右ボタン 25
メモリー
 増設する 105
 用語解説 14
文字入力 29
モジュラージャック 77
モデム
 電話回線につなぐ 77
 用語解説 15

ラ

リカバリーCD 162
リソース 97、119
リフレッシュ・レートの変更 139
留守番電話 68

ワ

ワードパッド 29

アルファベット順

A

Adobe PhotoDeluxe 12
AV機器
 アンテナ 83
 液晶プロジェクター 91
 デジタルスチルカメラ 89
 テレビ 75、90
 ビデオカメラレコーダー 87
 ビデオデッキ 85

B

BIOSセットアップメニュー
 キー操作 110
 起動する 108
 終了する 110、132
 特長 107
 メニュー構成 109
 Advancedメニュー 119
 BIOSセットアップとは 106
 Exitメニュー 132
 Mainメニュー 111
 Securityメニュー 128

C

Communication Center 64
Community Place Browser 76
CD-R
 入れる 42
 お手入れ 149
 使用できるディスク 46
 取り扱いについて 147
 取り出す 51
 フォーマット 37、47
CD-R FS
 ディスクの取り出し 51
 ヒストリー機能 49
 ファイルの操作 48
 フォーマット 47
 フリーズ 52
 ヘルプを見る 48、50、53

CD-ROM

入れる 38、42

お手入れ 148

使用できるディスク 46

取り扱いについて 147

取り出す 40、44

CD-ROM / CD-Rドライブ 38、47

CPU 14

I

IDE 112

Internet Explorer 60、61

IrDA 71

ISA拡張ボード 96、125

M

Media Bar 74

MIDI機器 93

N

Navin' You Lite 76

Netscape Navigator 60、61

P

PCI拡張ボード 96

PictureGear Lite 12、71、76、89

S

Slipclip 12、73、84、86、88

T

TranXit 71

TV 75

V

V/Uミキサー 84

W

Windows 95 21、134

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは

ITテクニカルレスポンスセンターへ

● 0466-30-3000

ユーザー登録、一般的なお問い合わせは

VAIOカスタマー専用デスクへ

● 03-3584-6651

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan